

TIBCO WebFOCUS®

リリースノート/新機能ガイド

バージョン 8.2.07.28

December 2021

DN4501762.0721A



目次

1. バージョン 8.2.07.28 リリースガイド	7
新機能.....	7
新しい開始ページ	7
データに対する予測分析の実行	7
データファイルアップロード時のメタデータ分類の値の変更	8
TIBCO WebFOCUS の DSML サービス	9
外部コンテンツから作成したページでのフィルタの連鎖.....	10
集約ページでのダブルリストコントロールおよび切り替えコントロール	12
Designer ページのコンテナの結合	13
デザイナーオートプロンプトページ	15
Designer レポートへの条件付きスタイルの適用.....	17
日付時間フィルタでのタイムゾーンの設定	19
グラフおよびライザのサイズ変更	23
WebFOCUS Designer でのレポートのスタイル設定	24
WebFOCUS Designer のページ化キャンバス	28
レポートの行合計のフォーマット変更	29
Designer のフィールドリストパラメータ	30
Drill Anywhere を使用したフィールド間関係の分析	34
大規模データソースおよびストリーミングデータソースのフィルタ設定	36
単一ローカル Git リポジトリへの複数リモート Git リポジトリの関連付け	40
三角関数のサポート	45
負のゼロ値フォーマットのサポート	48
Google Analytics アダプタおよび Google Sheets アダプタ - プロキシサーバのサポート	51
アップグレードに関する注意事項	51
ソフトウェアのブランド変更について	56
関連マニュアルおよび資料のブランド変更について	57
ReportCaster - ライセンスに基づく日単位レポート数のサポート	58
ESRI 人口統計レイヤ 2010 年版および 2012 年版の廃止	59
作成済みページでのリセットボタンと実行ボタンの順序変更	60

WebFOCUS Designer のウィンドウの表示/非表示メニューの移動	60
既知の問題	61
ブラウザ情報	63
2. リリース情報	65
ブラウザ情報	65
TIBCO WebFOCUS のアクセシビリティ準拠	67
アクセシビリティのサポート基準	67
適合ステータス	68
アクセシビリティ機能の範囲	68
テクノロジー仕様	70
制限事項	70
TIBCO WebFOCUS Client でサポートされるオペレーティングシステム	71
TIBCO WebFOCUS での Java Platform、Standard Edition (Java SE) のサポート	72
サポート対象の Web サーバおよび Application Server	73
サポート対象の RDBMS およびドライバ	73
ローカリゼーション (NLV) および NLS の制限事項	75
国際言語サポート (NLS)	76
ローカライズ版のサポート (NLV)	76
TIBCO WebFOCUS および TIBCO WebFOCUS Reporting Server	76
言語	77
TIBCO WebFOCUS Client および ReportCaster	79
TIBCO WebFOCUS レポート および Microsoft Office のサポート	80
TIBCO WebFOCUS レポートフォーマットおよび Microsoft 製品との関連付け	80
TIBCO WebFOCUS の EXL2K、PPT フォーマットおよび Microsoft Office 製品のサポート	81
Microsoft Office 2003 のサポート	81
TIBCO WebFOCUS の EXL2K、PPT フォーマットおよび Microsoft Office Viewer 製品の サポート	81
Microsoft Office 365 のサポート	82
ハイパーリンクを使用してレポートを実行する際の注意事項	82
TIBCO WebFOCUS の DOC フォーマット	83

Legal and Third-Party Notices	85
補足：アシスト追記版リリースノート	87

1

バージョン 8.2.07.28 リリースガイド

ここでは、TIBCO WebFOCUS® の上記バージョンについて、必要な最新情報を提供します。

トピックス

- ❑ [新機能](#)
- ❑ [アップグレードに関する注意事項](#)
- ❑ [既知の問題](#)
- ❑ [ブラウザ情報](#)

新機能

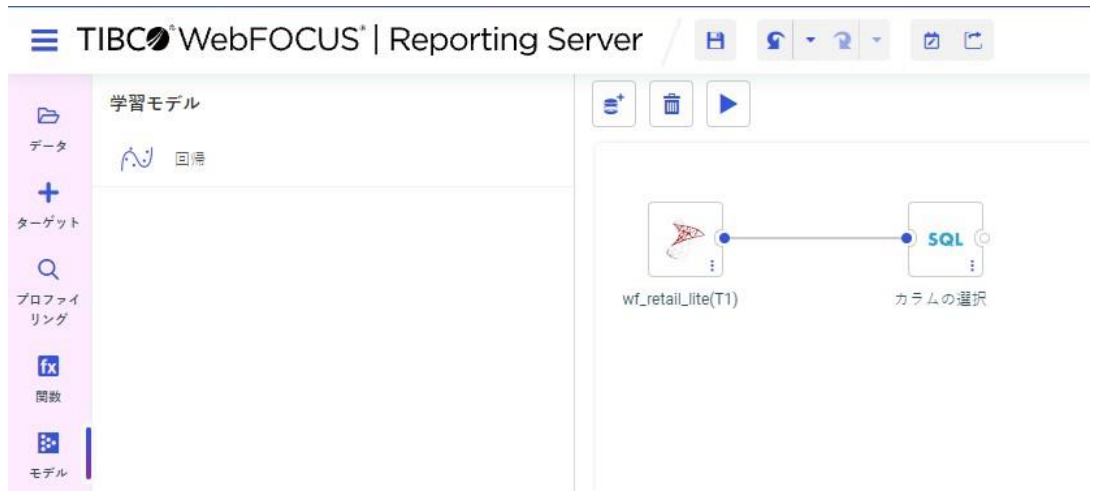
新しい開始ページ

新しい開始ページからは、TIBCO WebFOCUS のすべてのエリアにナビゲートできます。新しい開始ページは、統合されたコンテンツ作成機能とシームレスな管理操作の両方にアクセス可能な統一ツールです。新しく導入された直観的なユーザインターフェースを使用して、開発者、管理者、および分析コンテンツの利用者は、単一のダイナミックな環境で WebFOCUS の機能を最大限活用することができます。

データに対する予測分析の実行

データフローの作成時に、高度な統計の知識がなくても、機械学習機能を使用して、データセットに対して予測分析を簡単に実行することができます。

回帰モデルに加えて、データに対する二項分類や異常検知のトレーニングと実行も可能になりました。



二項分類モデルは、4つのアルゴリズム（ランダムフォレスト、k最近傍法、ロジスティック回帰、勾配ブースティング）を使用してバイナリ値を予測します。

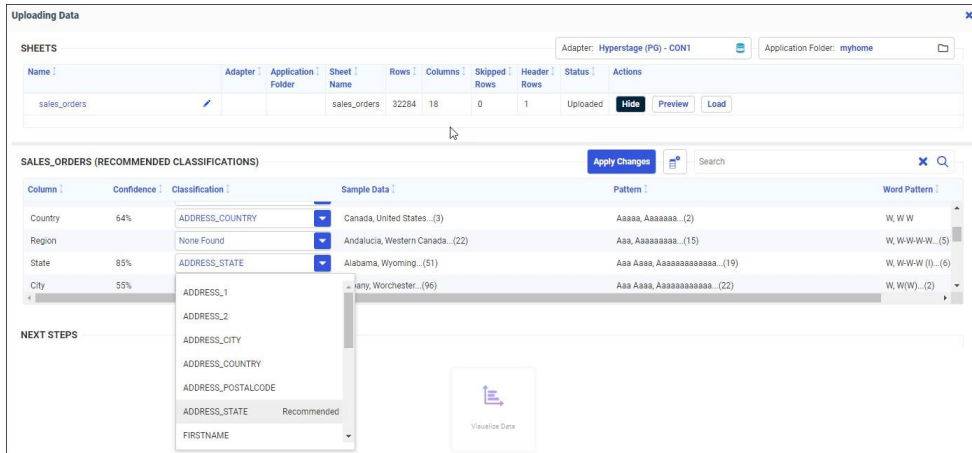
異常検知モデルは、アイソレーションフォレストクラスターアルゴリズムを使用して、異常値を検出します。

データファイルアップロード時のメタデータ分類の値の変更

メタデータ分類機能がインストールおよび構成済みの場合、データファイルのアップロード時に、各文字値フィールドのメタデータ分類推奨値が表示されます。この場合、推奨値を保持することも、これを変更することもできます。

分類の推奨が行われる際に、分類済みのフィールドには、関連する信頼度が表示されます。この信頼度は、分類が正確である確率を示します。

フィールドの分類リストから選択することも、フィールド横のテキストボックスに独自の分類を入力することもできます。下図のように、フィールドのドロップダウン矢印をクリックすると、分類リストが表示され、推奨値が示されます。



データに分類値を追加することで、各テーブルのフィールドをより正確にマッピングできるようになります。これは、複数のソースからデータを統合する場合、または階層が事前定義されたシステムにデータを統合する場合に特に有効です。異なるデータソースから **UNION** を作成する場合、メタデータ分類アルゴリズムは、類似データを含むフィールドを一致させます。

TIBCO WebFOCUS の DSML サービス

TIBCO WebFOCUS の DSML サービスが、バイナリで提供されるようになり、**eDelivery** サイトから利用できます。

次の WebFOCUS 製品が DSML サービスに含まれます。

- Instant Insights** データセットに対する高度な分析の実行およびビジュアライゼーションやナレーションの生成が簡単に行えます。この場合、手動でのデータ準備や分析、データサイエンスや統計の予備知識は必要ありません。ワンクリックで、**Designer** の **Instant Insights** 機能がデータの傾向を認識し、カスタマイズ可能なビジュアライゼーションを自然言語の見出しを使用したグラフとして生成し、これらのグラフをタブごとに分類します。これらのグラフは **Designer** キャンバスに追加してページを作成したり、既存ページやダッシュボードに追加したりできます。さらに、これらの分析情報を保存し、他のユーザと共有することもできます。**Instant Insights** についての詳細は、『TIBCO WebFOCUS 利用ガ

- ❑ **機械学習機能** データフローの作成時に、高度な統計の知識がなくても、機械学習機能を使用して、データセットに対して予測分析を簡単に実行することができます。複数の予測モデルのイテレーションを同時に構築、トレーニング、実行し、各モデルを積極的に評価、比較した上で保存するモデルを選択します。その後、選択したモデルを新しいデータセットに対して再実行することができます。機械学習機能についての詳細は、『**TIBCO WebFOCUS 利用ガイド**』を参照してください。
- ❑ **メタデータ分類** データを検証し、フィールドに対して分類を割り当てます。その後、この分類は、別のデータソースのフィールドとの一致に使用することができます。アップロードするデータを分類し、この分類を使用して、データフローの **UNION** でフィールドを一致させることができます。データファイルをアップロードする際に、各文字値フィールドに対するメタデータ分類の推奨値が表示されます。この場合、推奨値を保持することも、これを変更することもできます。データに分類値を追加することで、各テーブルのフィールドをより正確にマッピングできるようになります。これは、複数のソースからデータを統合する場合、または階層が事前定義されたシステムにデータを統合する場合に特に有効です。メタデータ分類についての詳細は、『**TIBCO WebFOCUS 利用ガイド**』および『**TIBCO WebFOCUS サーバ管理者ガイド**』を参照してください。

外部コンテンツから作成したページでのフィルタの連鎖

コンテンツ項目またはページに複数のフィルタが含まれる場合、連鎖によってこれらのフィルタがコンテンツに対して常に有効な値を返すようにすることができます。連鎖が適用されている場合は、フィルタコントロールのいずれかから値を選択すると、他のコントロールも選択した値に基づいてフィルタおよび更新されます。たとえば、[売上四半期] フィルタが [売上月] フィルタと連鎖されている場合、[売上四半期] フィルタから **Q1** を選択すると、[売上月] フィルタが更新され、1 月、2 月、3 月のみが表示されます。Q1 以外の月の値は自動的に除外されます。

連鎖の動作は、新規コンテンツおよび新規コンテンツから作成したページのフィルタコントロールに自動的に適用されます。これらのコンテンツ項目では、フィルタの連鎖は全方向連鎖であるため、フィルタコントロールの配置順序は関係ありません。連鎖は、文字ディメンションフィールドのフィルタにのみ適用されます。

連鎖は、既存コンテンツから作成したページでも利用できます。既存コンテンツによるページは、WebFOCUS ホームページのプラス (+) メニューで【新規ページの作成】をクリックして作成できます。新規ページを作成し、動的パラメータフィルタを含むコンテンツを追加すると、サイドバーの【フィルタ】タブにバッジアイコンが表示されます。下図はその例です。



【フィルタ】タブを開くと、【すべてのフィルタをページに追加】ボタンおよびページ上のコンテンツ項目のパラメータリストが表示されます。【すべてのフィルタをページに追加】をクリックして、リストに表示されたすべてのパラメータでフィルタコントロールを作成するか、各パラメータを右クリックして【ページに追加】を選択し、これらを個別に追加します。追加後、パラメータ横の表示アイコンが薄い色の表示でなくなります。

連鎖の関係は、パラメータリスト内のインデントで示されます。フィルタコントロールは、このリストで下位にインデントされたすべてのフィルタに連鎖されます。たとえば、下図では、【カテゴリ】フィルタが【モデル】フィルタに連鎖されているため、カテゴリを選択すると、このフィルタコントロールで使用可能なモデルのリストが更新されます。



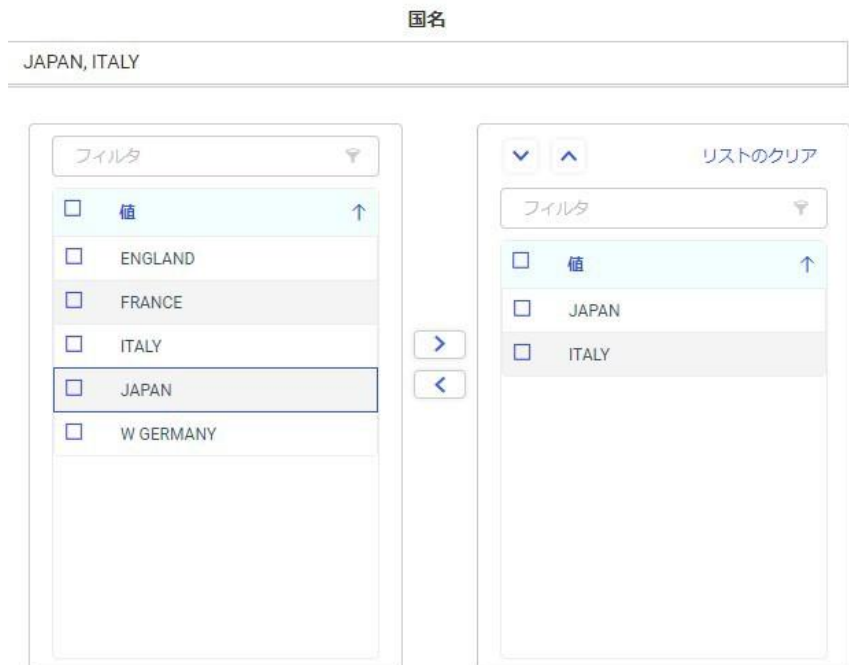
この例では、【カテゴリ】フィルタの選択は、【地区】または【店舗区分】のフィルタには影響しません。これは、これらが同一連鎖階層に含まれないためです。また、既存コンテンツから作成したページのフィルタの連鎖は単一方向であるため、【モデル】フィルタで選択した値が、【カテゴリ】フィルタに逆方向に連鎖されることもありません。

メタデータの同一階層内のフィールドのフィルタは、自動的に連鎖されます。パラメータリストで、1つのパラメータを別のパラメータにドラッグし、手動で連鎖を適用することもできます。このフィルタは、連鎖目的で、配置先のフィールドの子になります。

集約ページでのダブルリストコントロールおよび切り替えコントロール

WebFOCUS Designer で外部コンテンツから作成したページでは、文字パラメータフィルタに2つの新しいコントロールが使用できます。ダブルリストコントロールでは、複数のディメンション値を選択し、これらを並べ替えることができます。一方、切り替えコントロールでは、2つのディメンション値間の切り替えが行えます。

これらのコントロールはそれぞれ、特定の種類のパラメータでの使用に特化されています。ダブルリストコントロールは、すべての文字、複数選択パラメータで使用できます。ダブルリストコントロールのソート機能は、**InfoApp** の複数選択フィールドリストパラメータで特に有効です。この場合、ダブルリストコントロールを使用して、パラメータ化されたコンテンツのソートフィールドおよびメジャーフィールドのソート順を変更することができます。下図はダブルリストコントロールを示しています。



実行時のページでダブルリストコントロールを使用するには、選択したフィルタ値を示すテキストをクリックします。ダブルリストコントロールが開きます。コントロールで、フィルタで使用する値ごとに、左側の利用可能な値リストのチェックボックスを選択して、右矢印ボタン  をクリックし、これらを右側の適用されたフィルタ値のリストに移動します。適用された値のリストから値を削除するには、これをダブルクリックするかチェックボックスを選択して左矢印ボタン  をクリックします。ダブルリストコントロールの外側をクリックすると、新しいフィルタ値が適用されます。

切り替えコントロールは、2つの利用可能なフィルタ値のみを提示する必要がある場合に有効です。たとえば、フィルタがブール式で使用される場合は、定義済みのフラグフィールドが **true** または **false** に設定されます。[設定] パネルで、表示値および実際の値をカスタマイズしたり、切り替えコントロールの 2 つ目の値のラベルを非表示にしたりできます。下図は、切り替えコントロールを示しています。



実行時のページで切り替えコントロールを使用するには、切り替えスイッチをクリックして 2 つ目の値を選択するか、これを再度クリックし、1 つ目の値を再度選択します。ページの作成者は、2 つ目の値が 1 つ目の値のラベルに応じて設定される場合は、2 つ目の値のラベルを非表示にすることができます。

既存コンテンツで作成したページにダブルリストコントロールまたは切り替えコントロールを追加するには、文字フィールドに動的パラメータを含むコンテンツ項目をページに追加すると、自動的に生成されたフィルタコントロールがページに追加されます。ドロップダウンリストコントロールを右クリックして [変換] を選択し、[ダブルリスト] または [切り替え] をクリックします。ダブルリストコントロールは、複数選択パラメータでのみ使用できます。

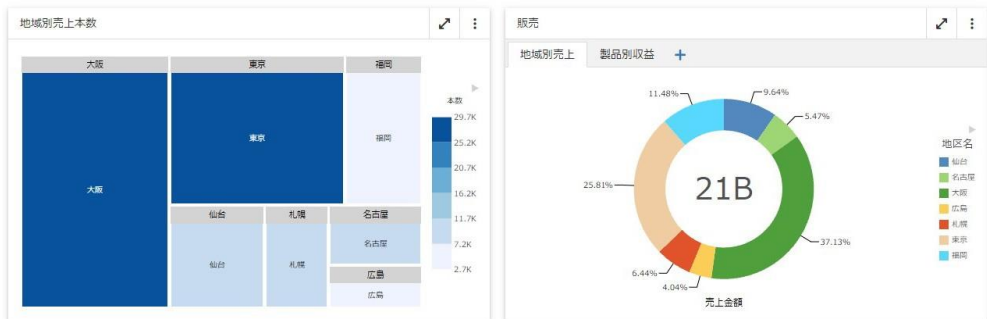
Designer ページのコンテナの結合

WebFOCUS Designer では、複数のコンテンツ項目をタブ、アコーディオン、カルーセルのコンテナに追加することができます。単一項目のみ追加可能なベーシックパネルコンテナを使用してページに単一コンテンツ項目を追加し、この同じコンテナに 2 つ目のコンテンツ項目をドラッグすると、複数コンテンツ項目をサポートするタイプにこのコンテナを変換するオプションが利用可能になります。また、1 つのページの異なるコンテナに複数の項目を追加済みの場合、これらを統合し、単一の複数コンテンツコンテナにすることができます。

ページ上の複数コンテナを結合するには、**Ctrl** キーを押しながら各コンテナのツールバーをクリックして複数選択します。次に、選択したコンテナのいずれかを右クリックして **【結合】** を選択し、コンテナの結合先にする複数コンテンツコンテナのタイプ（タブ、アコーディオン、カルーセル）を選択します。

このオプションは、ページ上のベーシックパネル、タブ、アコーディオン、カルーセルのコンテナで使用できます。リンクタイトル、グリッド、パネルグループのコンテナ、およびエクスプローラウィジェットでは使用できません、これらのコンテナは、標準のコンテンツ項目を格納しないためです。

たとえば、下図は、結合前のページ上の 2 つの異なるコンテナを示しています。



下図では、2つのコンテナが単一のアコーディオンコンテナに結合されています。



デザイナーオートプロンプトページ

デフォルト設定のレスポンシブオートプロンプトページの代わりに利用可能な新しいデザイナーオートプロンプトテンプレートでは、**Designer** ページの外観に近い使い慣れたレイアウトで、迅速かつ直観的なオートプロンプトの自動フィルタ動作が適用されます。デフォルト値が設定されていないパラメータを含むコンテンツを実行すると、最初にオートプロンプトページが表示され、コンテンツの表示前にこれらのパラメータに値を指定することができます。これにより、コンテンツが正しく表示されます。

Designer ページと同様に、値のリストを含むパラメータではドロップダウンリストが生成され、特定のリストまたは値範囲が存在しないパラメータではテキストボックスが生成され、特定範囲の数値フィールドのパラメータではスライダが生成され、日付フィールドのパラメータではカレンダーコントロールが生成されます。下図は、いくつかの自動生成されたフィルタコントロールを含むデザイナオートプロンプトページを示しています。

The screenshot shows a preview window titled "プレビュー" (Preview). It contains several filter controls: a dropdown menu for "地区名" (Region Name) with "選択..." (Select...) as the placeholder; a text input field for "営業所名" (Branch Name); a slider for "売上金額" (Sales Amount) with a range from 14700 to 63000000 and a current value of 14700; and a date selection control for "契約日" (Contract Date) with a placeholder "日付の選択" (Select Date). At the bottom right, there are two buttons: "リセット" (Reset) and "実行" (Execute).

デザイナオートプロンプトインターフェースを使用してパラメータ化されたコンテンツを実行すると、自動生成されたフィルタコントロールを使用して値が選択できます。このフィルタコントロールには、パラメータのフォーマットおよび指定された値の範囲またはリストに基づいて適切なオプションが表示されます。コントロールからフィルタ値を選択し、**[実行]**をクリックすると、コンテンツが実行されます。グラフ、レポート、その他のコンテンツが、適用されたパラメータ選択でロードされます。さらに、複数の値の組み合わせで同一コンテンツを実行し、これらのデータセットへの影響を確認することができます。すべてのコントロールをデフォルト値にリセットするには、**[リセット]**をクリックします。

詳細は、『**WebFOCUS アプリケーション作成ガイド**』の第 3 章「ユーザインターフェースのコーディング」の「デザイナオートプロンプト」セクションを参照してください。

Designer レポートへの条件付きスタイルの適用

条件付きスタイルは、値が特定の条件を満たす場合に、グラフまたはレポートのセルに固有のスタイルを適用する機能です。これにより、特に高い値または低い値、別のフィールドより高い値または低い値を強調し、コンテンツ内の重要な情報を見つけやすくします。また、条件付きスタイルを使用して、設定した条件に合う値へのドリルダウンリンクを追加し、グラフまたはレポートを実行するユーザが、これらのレコードに関連する追加のコンテキストや情報にアクセスできるようにすることもできます。下図は、条件付きスタイルが適用されたレポートを示しています。**2,000,000** より大きい収益の値は、背景が明るい緑色で表示され、**2,000,000** より小さい収益の値は、背景が明るいピンク色で表示されています。

店舗名	販売数量	収益
Amsterdam	¥909.00	¥6,384,900.00
Anchorage	¥808.00	¥2,766,000.00
Arlington	¥686.00	¥2,696,000.00
Athens	¥715.00	¥1,200,000.00
Atlanta	¥798.00	¥3,414,000.00
Bangalore	¥897.00	¥1,200,000.00
Bangkok	¥836.00	¥1,200,000.00
Barcelona	¥870.00	¥1,200,000.00
Beijing	¥811.00	¥1,200,000.00
Belfast	¥743.00	¥1,200,000.00
Berlin	¥711.00	¥6,543,000.00
Boise	¥768.00	¥1,200,000.00
Boston	¥927.00	¥2,360,000.00
Brasilia	¥851.00	¥7,765,000.00
Brussels	¥711.00	¥5,615,900.00
Budapest	¥809.00	¥4,307,900.00
Cairo	¥755.00	¥1,200,000.00
Casper	¥909.00	¥1,200,000.00
Charlotte	¥815.00	¥3,011,000.00
Chicago	¥708.00	¥5,616,000.00
Colorado Springs	¥788.00	¥2,251,000.00
Copenhagen	¥739.00	¥7,018,900.00
Dallas	¥650.00	¥2,252,000.00
Dayton	¥807.00	¥2,258,000.00
Des Moines	¥649.00	¥1,200,000.00
Detroit	¥712.00	¥5,407,000.00

条件付きスタイルは、フィールドレベルで設定されます。フィールドの条件付きスタイルを有効にするには、フィールドを右クリックし、**[条件付きスタイル設定]** を選択します。**[条件付きスタイル設定]** パネルが開き、一致した場合に条件付きスタイル設定のトリガとなる条件を設定できます。

選択したフィールドの値を別のフィールドの値や、指定した静的値と比較する条件を作成することができます。グラフでは、条件付きスタイルの条件に合わせてライザの色を設定することができます。レポートでは、条件付きスタイル設定を適用したセルのフォント、テキストサイズ、テキスト色、フォントスタイル、配置、背景色を設定できます。下図は、レポートで使用可能なスタイル設定オプションを示しています。



同一フィールドに複数の条件を適用することも、各フィールドで異なるスタイル設定プロパティを適用することもできます。たとえば、これにより、同一フィールドで特に高い値および特に低い値を強調することができます。

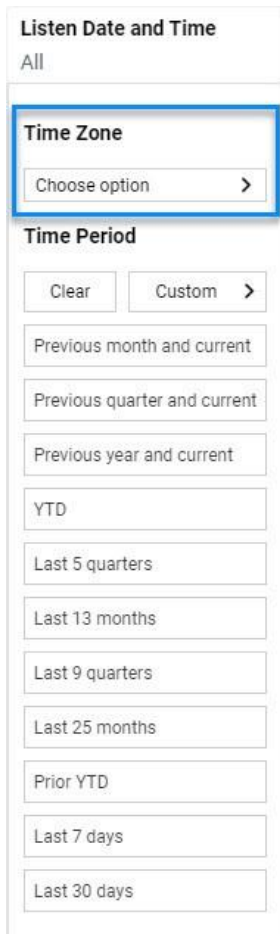
条件および条件を満たした場合に適用するスタイルを設定後、**[適用]** をクリックします。その後、**[条件付きスタイル設定]** パネルを閉じることができます。レポートを実行すると、指定した条件に一致するスタイル設定済みフィールドの値に、特別なスタイルが適用され、一目で識別しやすくなります。

日付時間フィルタでのタイムゾーンの設定

日付のみのフィールドに対して、日付とタイムスタンプの両方を含むフィールドには、日付時間フォーマットが使用されます。日付時間フィールドは、通常の日付フィールドとは別のフィールドタイプと考えられます。日付時間値のタイムスタンプは、ミリ秒、マイクロ秒、ナノ秒まで正確に表すことができます。グラフ、レポート、または **WebFOCUS Designer** のユーザ作成ページで日付時間フィールドにフィルタを設定する場合、通常の日付フィルタ設定オプションに加えて、タイムゾーンの変更機能が提供されます。これにより、ユーザのローカルタイムゾーンに基づいてコンテンツのフィルタを設定することができます。つまり、ユーザは、データが別のタイムゾーンで記録された場合でも、ローカルタイムに基づく日付範囲でコンテンツにフィルタを設定できるということです。タイムゾーンは、場所または **UTC** オフセットに基づいて設定できます。

日付時間フィルタの一部としてタイムゾーンを設定すると、別のタイムゾーンで記録された可能性のあるデータを、ユーザの現在のタイムゾーンで定義した日付範囲に基づいて表示するようコンテンツにフィルタが設定されます。たとえば、データがグリニッジ標準時（標準時間で **UTC±0**）で記録され、ユーザの日付範囲のタイムゾーンを東部標準時（**UTC-5**）を使用する場所に設定した場合、フィルタされたデータは、日付範囲の 1 日目の午前 5 時から開始されます。これは、データが記録されたタイムゾーンとして使用される **UTC±0** での午前 5 時が、フィルタで選択したタイムゾーンの東部標準時の深夜 0 時と同時刻であるためです。フィルタされる日付範囲の開始時間は、2 つのタイムゾーンの時差に基づいて変更されます。コンテンツに表示されるデータ値は、フィルタで使用するタイムゾーンを変更しても変更されず、**UTC±0** のオフセットのタイムゾーンから記述されたと想定されます。

フィルタにタイムゾーンを適用するには、日付時間フィールドをフィルタツールバーまたは【フィルタ】バケットにドラッグします。日付フィールドでも使用可能な範囲オプションに加えて、【タイムゾーン】オプションが表示されます。設定済みの場合は、デフォルトタイムゾーンが選択されます。プロンプトフィルタでタイムゾーンを設定するには、下図のように、【タイムゾーン】メニューをクリックします。



Listen Date and Time

All

Time Zone

Choose option >

Time Period

Clear Custom >

Previous month and current

Previous quarter and current

Previous year and current

YTD

Last 5 quarters

Last 13 months

Last 9 quarters

Last 25 months

Prior YTD

Last 7 days

Last 30 days

静的フィルタでタイムゾーンを設定するには、下図のように、[タイムゾーン] オプションをクリックします。

The screenshot displays a configuration window for static filters. At the top, a dark blue banner contains the text: "Values shown in the range are based on a subset of data. You can enter values manually from the full data set." Below this, the "Time Zone" option is highlighted with a red rectangle and labeled "Choose option" with a pencil icon. Underneath, the "Compare to" section has two radio buttons: "Value" (selected) and "Field". The "Select values" section includes four buttons: "Select ranges" (highlighted in dark blue), "Select from data", "Select from file", and "Enter manually". At the bottom, the "Type" section has two radio buttons: "Single date" (selected) and "Range of dates". Below these are a dropdown menu showing "On or after" and a date input field showing "Jan 1, 1970".

場所に基づいてタイムゾーンを選択するには、[タイムゾーン] ダイアログボックスの [タイムゾーン] タブで、最初に国または地域を【国】 ドロップダウンリストから選択します。国または地域の名前を入力し始めると、すばやくナビゲートできます。国または地域を選択すると、下図のように、この国で使用可能な場所に基づくタイムゾーンのリストが表示されます。

☒ Apply a time zone

Time zones **Time Offsets (UTC)**

Country

Indonesia

Jakarta

Jayapura

Makassar

Pontianak

Reset to default Cancel OK

場所を選択し、[OK] をクリックしてこれを適用します。

場所に基づくタイムゾーンには、時期によって夏時間が自動的に適用されます。たとえば、北米東部時間ゾーンでは、標準時には **UTC-05:00** の **UTC** オフセットが適用され、夏時間には **UTC-04:00** の **UTC** オフセットが適用されます。

場所に基づくタイムゾーンの代わりに **UTC** オフセットのタイムゾーンを選択するには、[タイムオフセット (UTC)] タブをクリックし、オプションを選択します。[OK] をクリックして、新しいタイムゾーンを適用します。

タイムゾーンを設定後、フィルタの日付範囲を選択し、これを適用します。コンテンツがリフレッシュされ、日付範囲の開始時間と終了時間が選択したタイムゾーンに基づいて調整されます。

グラフおよびライザのサイズ変更

デフォルト設定では、作成時にグラフは実行先のフレームの大きさに合わせて表示され、ライザおよびその他のグラフセクションのサイズもこれに応じて調整されます。これによりグラフの表示はフレキシブルになり、大きいコンテナでも小さいコンテナでも、グラフの外観や読みやすさを損なうことなく実行することができます。この自動サイズ調整では、グラフのサイズプロパティを手動で設定する必要がありません。

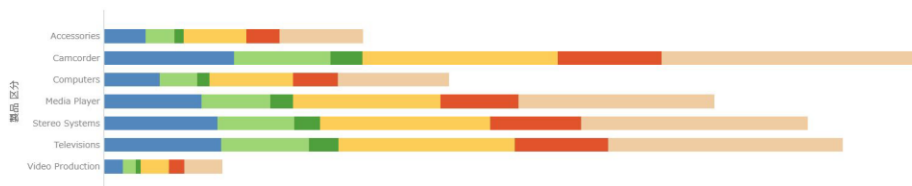
ただし、必要に応じて、グラフに一定のサイズを設定するオプションを使用することもできます。また、棒グラフの棒の幅をライザ領域のパーセントで指定することも、棒グラフ、面グラフ、折れ線グラフのライザの幅を X 軸のフォントサイズに基づいて設定したり、任意の正確な値に設定したりすることもできます。

グラフで静的な高さと幅を設定することで、ロード先に関係なく同一サイズを保持することができます。この機能は、たとえば、**PowerPoint** プレゼンテーションまたは **PDF** にグラフを追

加し、各スライドまたはページ上に他のコンテンツのための余白を残したい場合に便利です。グラフのサイズを設定するには、[フォーマット] タブでクイックアクセスメニューから [全般] を選択します。[その他] セクションで、[コンテナに合わせる] オプションがデフォルト設定で [自動] に設定されていることに注意します。この場合、グラフのサイズはコンテナの大きさに合わせて自動的に調整されます。グラフのサイズを指定するには、この設定を [手動] に変更し、グラフの幅と高さをピクセル単位で指定します。これらのサイズを設定すると、[縦横比の固定] チェックボックスが選択可能になり、幅または高さを変更すると同じ縦横比を保持するよう他方のサイズも変更されます。

棒グラフ、面グラフ、折れ線グラフの値は、ディメンション値ごとにラベルが表示される X 軸上の各点の棒、面、線の高さで示されます。これらの点は、汎用的に「ライザ」と呼ばれます。これらのライザの幅は、グラフの幅に合わせて設定したり、X 軸ラベルのフォントサイズに

これらのオプションにアクセスするには、[フォーマット] タブで [シリーズ] を選択し、[すべてのシリーズ] を選択したままにします。デフォルト設定で、ライザの幅は、グラフの幅に基づいて均等に表示されるよう自動的にサイズ調整されます。[形状] セクションで、[ライザ幅] プロパティを [X 軸のフォントサイズ] に変更し、ライザの幅をグラフの X 軸のディメンションラベルのサイズに拡大することができます。これは、ライザとラベルがほぼ同じ大きさの縦方向の領域を占める横方向のグラフで特に有効です。フォントサイズを変更するには、[フォーマット] タブでクイックアクセスメニューから [軸] を選択し、軸ドロップダウンリストから [X軸] を選択します。[ラベル] セクションには、軸ラベルのフォントサイズを変更するオプションが含まれます。下図では、フォントサイズが 18 に拡大され、[ライザ幅] プロパティが [X 軸のフォントサイズ] に設定されているため、各ライザの幅もこれに応じて拡大されています。



各ライザの幅は、ピクセル単位で設定することもできます。この場合、[ライザ幅] プロパティを [手動] に設定し、スライダを使用してライザの幅を設定します。ライザ幅が広すぎてグラフフレーム内にすべてのライザが収まらない場合は、スクロールバーが追加されます。

棒グラフでは、[棒幅のパーセント値 (%)] プロパティのスライダを使用して、各棒または左右縦棒の占めるライザ領域のパーセントを設定することもできます。この値を小さくすると、棒と棒の間隔が広がります。

WebFOCUS Designer でのレポートのスタイル設定

レポートのスタイル設定でさまざまなエリアを強調表示したり、特定の値グループに注目を集めたり、差別化を図ることで、作成したレポートを読みやすくすることができます。

WebFOCUS Designer では、一連の新しいレポートスタイルオプションを使用して、テキストとセルおよびその他プロパティのスタイル設定をレポート全体またはレポートの特定エリアに適用することができます。

レポートの作成時に、【フォーマット】タブを開き、クイックアクセスメニューからオプションを選択して、スタイルを設定するレポートのエリアを選択します。デフォルト設定では【全般】が選択されています。【全般】オプションを使用して適用したスタイルの変更は、レポート全体に影響します。別の方法として、スタイル設定を 列、**ACROSS** フィールド、列合計、行合計のレベルに適用することもできます。また、ページのサイズや向きなどのページレイアウトオプションを変更することもできます。列、**ACROSS** フィールド、列合計および中間合計、行合計にスタイルを適用する場合、レポートエリアのすべてのフィールドにスタイルを設定することも、単一フィールドにスタイルを設定することもできます。スタイルをタイトル、データ値、または両方に適用するかを選択することもできます。タイトルとデータ値に異なるスタイルを設定することで、それぞれを区別し、レポート内の異なる情報に注目を集めることができます。

スタイルオプションには、テキストとセルのフォーマット設定のほか、レポートの特定エリアに固有のその他オプションも含まれます。フォント、フォントスタイル、配置、サイズ、テキスト色が変更できます。下図は、これらのオプションを示しています。

テキスト

MS 明朝 ▼

B *I* U

≡ ≡ ≡

9 ▼ pt ▼

背景色またはマージンを変更することで、レポート内のエリアごとに異なるセルのフォーマットが設定できます。レポート全体、列、**ACROSS** フィールド、列合計と中間合計、行合計で、タイトルとデータ値に別々の背景色を設定することができます。[全般] または [列] を選択すると、レポートのデータ値に色バンド (縞模様) を適用することができます。色バンドを使用することで、レポート全体で交互に異なる色の背景色が繰り返されるため、レポート内の各行またはソート値を視覚的に区別して表示することができます。これらの色は、行ごとに交互に表示することも、選択したソートフィールドの新しい値ごとに表示することもできます。下図は、値ごとに黄色、白、青、白と変化する色バンドを使用したレポートを示しています。

売上 年	売上 製品 四半期 区分	販売 数量	収益	粗利益
2016	1 Accessories	4,580	\$1,125,123.02	\$347,865.02
	Camcorder	3,873	\$1,225,199.72	\$406,657.72
	Computers	1,343	\$302,839.60	\$117,086.60
	Media Player	11,717	\$3,427,197.08	\$925,302.08
	Stereo Systems	15,000	\$3,320,151.66	\$1,072,105.66
	Televisions	3,925	\$1,566,904.80	\$385,015.80
	Video Production	1,720	\$477,391.46	\$154,764.46
	2 Accessories	4,662	\$1,165,106.04	\$362,612.04
	Camcorder	3,812	\$1,244,408.92	\$409,405.92
	Computers	1,235	\$285,463.66	\$110,264.66
	Media Player	11,618	\$3,268,394.69	\$894,116.69
	Stereo Systems	13,259	\$3,026,456.46	\$948,934.46
	Televisions	3,748	\$1,577,021.42	\$387,593.42
	Video Production	1,731	\$480,282.56	\$149,265.56
	3 Accessories	4,783	\$1,270,872.45	\$390,073.45
	Camcorder	4,346	\$1,536,974.19	\$484,041.19
	Computers	1,659	\$349,989.27	\$137,694.27
	Media Player	12,688	\$3,585,613.72	\$976,931.72
	Stereo Systems	10,607	\$2,738,062.03	\$817,195.03
	Televisions	4,301	\$1,796,316.25	\$443,139.25
	Video Production	1,909	\$557,392.58	\$170,352.58
	4 Accessories	6,127	\$1,478,196.06	\$458,077.06
	Camcorder	5,691	\$1,871,848.70	\$608,214.70
	Computers	2,493	\$503,542.66	\$195,915.66
	Media Player	14,943	\$4,699,372.86	\$1,250,601.86
	Stereo Systems	14,541	\$3,790,147.58	\$1,124,739.58
	Televisions	4,431	\$1,540,975.20	\$373,803.20
	Video Production	2,675	\$753,824.57	\$232,170.57
2017	1 Accessories	7,121	\$1,800,068.41	\$552,643.41
	Camcorder	6,469	\$2,304,019.65	\$724,485.65
	Computers	2,723	\$545,285.69	\$213,180.69
	Media Player	12,067	\$3,851,602.64	\$920,066.64
	Stereo Systems	15,336	\$3,940,880.70	\$1,159,442.70
	Televisions	1,437	\$1,096,511.50	\$293,450.50
	Video Production	2,856	\$838,058.72	\$258,863.72
	2 Accessories	7,323	\$1,827,354.16	\$563,129.16

下図は、[売上四半期] フィールドの値ごとに変化する同色の色バンドを示しています。

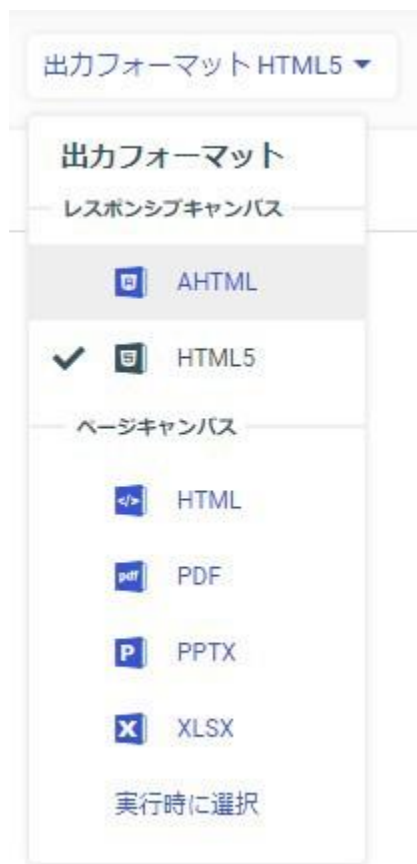
Sale Year	Sale Quarter	Product Category	Quantity Sold	Revenue	Gross Profit
2015	1	Accessories	4,580	\$1,125,123.02	\$347,865.02
		Camcorder	3,873	\$1,225,199.72	\$406,657.72
		Computers	1,343	\$302,839.60	\$117,086.60
		Media Player	11,717	\$3,427,197.08	\$925,302.08
		Stereo Systems	15,000	\$3,320,151.66	\$1,072,105.66
		Televisions	3,925	\$1,566,904.80	\$385,015.80
		Video Production	1,720	\$477,391.46	\$154,764.46
	2	Accessories	4,662	\$1,165,106.04	\$362,612.04
		Camcorder	3,812	\$1,244,408.92	\$409,405.92
		Computers	1,235	\$285,463.66	\$110,264.66
		Media Player	11,618	\$3,268,394.69	\$894,116.69
		Stereo Systems	13,259	\$3,026,456.46	\$948,934.46
		Televisions	3,748	\$1,577,021.42	\$387,599.42
		Video Production	1,731	\$480,282.56	\$149,265.56
	3	Accessories	4,783	\$1,270,872.45	\$390,073.45
		Camcorder	4,346	\$1,536,974.19	\$484,041.19
		Computers	1,659	\$349,989.27	\$137,694.27
		Media Player	12,688	\$3,585,613.72	\$976,931.72
		Stereo Systems	10,607	\$2,738,062.03	\$817,195.03
		Televisions	4,301	\$1,796,316.25	\$443,139.25
		Video Production	1,909	\$557,392.58	\$170,352.58
	4	Accessories	6,127	\$1,478,196.06	\$458,077.06
		Camcorder	5,691	\$1,871,848.70	\$608,214.70
		Computers	2,493	\$503,542.66	\$195,915.66
		Media Player	14,943	\$4,699,372.86	\$1,250,601.86
		Stereo Systems	14,541	\$3,790,147.58	\$1,124,739.58
		Televisions	4,431	\$1,540,975.20	\$373,803.20
		Video Production	2,675	\$753,824.57	\$232,170.57

これらの色バンドオプションを使用することで、必要に応じて値を視覚的にグループ化したり区別したりできます。

これらのオプションやその他のオプションを使用して、作成したレポートのスタイルを柔軟にカスタマイズしたり、必要に応じてセクション別に異なるスタイルを設定したりできます。

WebFOCUS Designer のページ化キャンバス

グラフおよびレポートを作成する場合、出力フォーマットを変更することで、コンテンツの実行時に生成されるファイルのタイプを変更することができます。出力フォーマットを変更するには、**WebFOCUS Designer** のビジュアルイゼーションツールバーから使用可能な【出力フォーマット】メニューを使用します。下図は、【出力フォーマット】メニューを示しています。



WebFOCUS Designer のグラフおよびレポートでは、次の出力フォーマットが使用できます。

- ☐ AHTML
- ☐ HTML5
- ☐ HTML
- ☐ PD

❑ PPTX

❑ XLSX

PDF、PPTX、XLSX 出力フォーマットでは、**PDF** ドキュメント、**PowerPoint** プレゼンテーション、**Excel** スプレッドシートがそれぞれ生成されます。これらはすべてページ化されたファイルタイプであるため、実行時出力のスクロールによるナビゲーション動作を表すために、ページ化キャンバスが導入されました。

AHTML 出力フォーマットでは、さまざまな実行時のインタラクションオプションが使用可能なブラウザベースの出力が生成され、レポートにはページナビゲーションツールバーが含まれます。そのため、**AHTML** 出力フォーマットのグラフおよびレポートでは、ツールヒント、オンキャンバスフィルタリングなどのインタラクティブオプションがデザイン時に使用可能なレスポンスキャンバスが使用され、スクロールの代わりにページナビゲーションツールバーを使用した移動が可能です。

HTML 出力フォーマットでは、一部のインタラクションオプションが使用可能なブラウザベースの出力が生成されますが、ページ化もされており、ブラウザ内でコンテンツをスクロールして移動することができます。結果として、2 つの **HTML** オプションが使用できます。**HTML5** 出力フォーマットでは、デザイン時にレスポンスキャンバスが使用され、**HTML** 出力フォーマットでは、ページ化キャンバスが使用されます。これにより、ユーザは、コンテンツの作成時に好きなキャンバススタイルを選択することができます。コンテンツの実行時には、**HTML5** と **HTML** の出力フォーマットは同一です。

レポートの行合計のフォーマット変更

WebFOCUS Designer のレポートに行合計を追加する場合、**ACROSS** フィールドの有無によって評価および表示の方法が異なります。1 つまたは複数のディメンションフィールドが [列] バケットに追加され、**ACROSS** フィールドが作成される場合、メジャー列は **ACROSS** フィールドの値ごとに繰り返されます。そのため、レポートに行合計を追加すると、**ACROSS** フィールドごとに評価され、個別の行合計列が生成されます。一方、**ACROSS** フィールドが存在しないレポートに行合計を追加する場合は、すべてのメジャーフィールドの値が集計され、単一の行合計列が生成されます。メジャーフィールドではさまざまなフィールドフォーマットが使用される場合があるため、単純にメジャーフィールドのいずれかのフォーマットを継承するのではなく、有効で論理的な方法で合計値が表示されるよう、**ACROSS** フィールドが存在しないレポートの行合計のフォーマットを変更することができます。

レポートに行合計を追加するには、[設定] タブの [コンテンツの設定] エリアで、[行合計を有効にする] をクリックします。選択後、[データフォーマットの編集] オプションが使用可能になります。このオプションを選択してフォーマットエディタを開き、行合計で使用する数値フォーマットを変更することができます。行合計の値は、レポート内の集計データの表示に最適な値のタイプによって、整数、小数値、通貨値、パーセントで表示することができます。また、必要に応じて、合計に表示するバイト数、小数点以下の桁数、負の値の表示方法、3 桁区切り文字およびリーディングゼロの表示、使用する通貨記号を制御することができます。下図のレポートでは、行合計に 3 桁区切り文字としてカンマ (,) を使用し、小数点以下 1 桁で行合計が表示されています。

売上製品 年区分	収益	粗利益	合計
2016 Accessories	\$5,039,297.57	\$1,558,627.57	\$6,597,925.14
Camcorder	\$5,878,431.53	\$1,908,319.53	\$7,786,751.06
Computers	\$1,441,835.19	\$560,961.19	\$2,002,796.38
Media Player	\$14,980,578.35	\$4,046,952.35	\$19,027,530.70
Stereo Systems	\$12,874,817.73	\$3,962,974.73	\$16,837,792.46
Televisions	\$6,481,217.67	\$1,589,557.67	\$8,070,775.34
Video Production	\$2,268,891.17	\$706,553.17	\$2,975,444.34

Designer のフィールドリストパラメータ

フィールドリストパラメータは、ユーザにフィールドの選択機能を提供する強力なツールです。実行時にこのツールを使用して、指定したフレームワークでグラフおよびレポートを作成することができます。フィールドリストパラメータは、グラフまたはレポートのフィールドの代わりにバケットに追加することができます。実行時に、ユーザは表示する必要があるフィールドを選択し、作成したコンテンツで表示するデータを選択することが可能になります。これらのフィールドリストパラメータを、コンテンツに常に表示されるフィールドで補完し、カスタマイズ可能なコンテンツと静的なコンテンツを混合することができます。フィールドリストパラメータは、単一選択にすることも、複数選択（複数フィールドを許容するバケットの場合）にすることもでき、高い柔軟性を備えています。フィールドリストパラメータは、InfoAppsの主要コンポーネントです。InfoApps のページでは、表示するフィールドをユーザが選択できます。

追加したフィールドリストパラメータはフィールドコンテナとして表示され、このフィールドコンテナに 1 つまたは複数のメジャーおよびディメンションフィールドを追加することができます。[設定] タブの [パラメータフィールドリストの追加] をクリックして、新しいパラメータを作成します。下図のように、[パラメータフィールドリストの追加] ダイアログボックスが開きます。



ここでは、フィールドリストコントロールおよびバケットのラベルとして使用されるプロンプト名を指定し、フィールドリスト選択の挿入先のバケットを選択し、フィールドリストパラメータを単一選択にするか複数選択にするかを指定することができます。[保存] をクリックしてパラメータを作成すると、[バケットタイプ] メニューで選択した場所にフィールドリストパラメータのプレースホルダが表示され、[フィルタ] バケット下に新しいフィールドリストパラメータのバケットが表示されます。プレースホルダは紫色で表示され、通常メジャーおよびディメンションフィールドと区別されます。

フィールドリストパラメータにフィールドを追加するには、これらを新しいフィールドリストパラメータのバケットにドラッグします。これらのフィールドは、フィールドリストパラメータを追加したバケットに追加可能なフィールドタイプである必要があります。下図は、レポートのバケットを示しています。ここでは、【製品区分】、【売上年】、【売上四半期】、【商業地方区分】のフィールドがフィールドリストパラメータに追加されており、このパラメータが【行】バケットに追加されています。

The screenshot displays a report configuration interface with two main sections: '表示' (Display) and 'フィルタ' (Filter).

表示 (Display) Section:

- A summary bar at the top shows a summation symbol (Σ) and a trash icon.
- The '行' (Rows) section contains a 'ソートフィールド' (Sort Field) button.
- The '列グループ' (Column Group) section has a 'フィールドをドロップ' (Drop Field) prompt.
- The 'SUM' section lists two fields: '販売 数量' (Sales Quantity) and '収益' (Revenue).

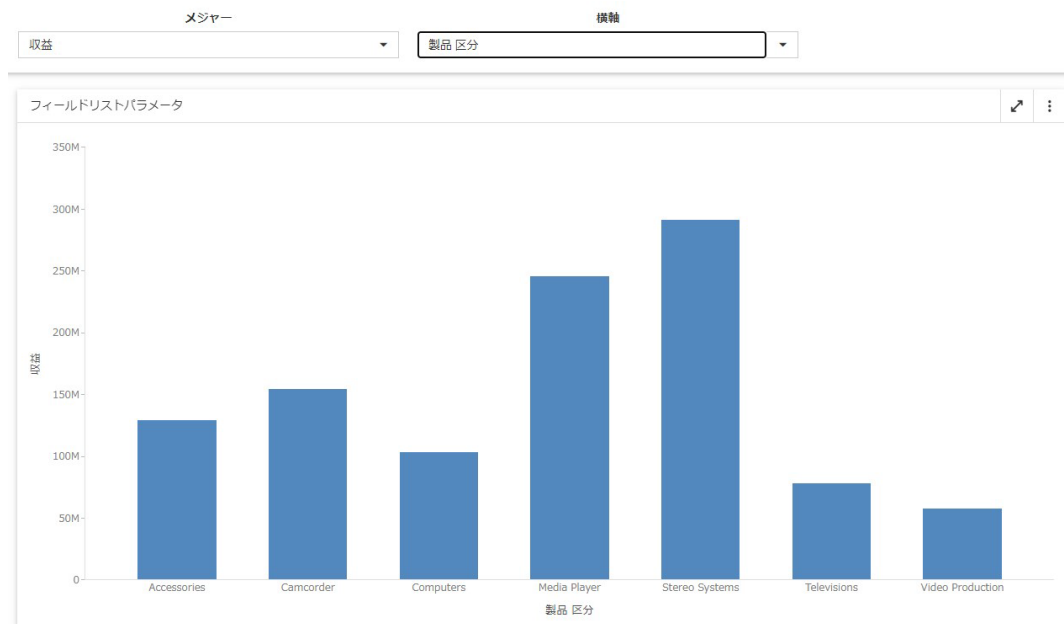
フィルタ (Filter) Section:

- The 'フィルタ' (Filter) section has a 'フィールドをドロップ' (Drop Field) prompt.
- The 'ソートフィールド' (Sort Field) section lists four fields, each with a checkmark: '製品 区分' (Product Division), '売上年' (Sales Year), '売上 四半期' (Sales Quarter), and '顧客 ビジネス 地方区分' (Customer Business Regional Division).

At the bottom, there is a link: '+パラメータフィールドリストの追加' (+Add Parameter Field List).

複数のフィールドリストパラメータを作成し、コンテンツに常に表示される通常のフィールドとともにこれらをバケットに追加することができます。これにより、グラフおよびレポートで永続フィールドとユーザ選択フィールドの両方を使用することができます。通常のフィールドと同様に、フィールドリストパラメータは、バケット内の他のフィールドおよびフィールドリストパラメータに対して並べ替えることができます。これにより、ユーザ選択フィールドを使用する場合でも、コンテンツのソート順を制御することができます。パラメータは、レポート内のすべてのバケット、およびすべてのグラフバケットに追加できますが、[複数グラフ]バケットには追加できません。

フィールドリストパラメータを使用したグラフまたはレポートを実行する場合、文字値の標準フィルタコントロールを使用して、追加の必要があるフィールドを選択することができます。グラフまたはレポートがスタンドアロンで実行される場合、これらのコントロールはオートプロンプトインターフェースで表示されます。グラフまたはレポートが集約ページに追加された場合、フィールドリストパラメータごとにフィルタコントロールを作成し、ユーザがフィールドを選択できるようにすることができます。下図は、複数のフィールドリストパラメータのコントロールを使用したページを示しています。



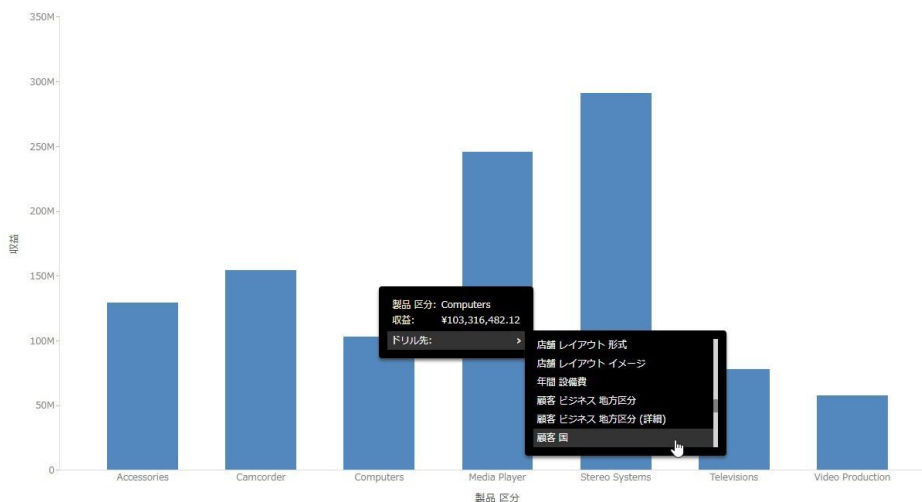
Drill Anywhere を使用したフィールド間関係の分析

オートドリルダウンは、データ階層を形成するフィールドの値からドリルダウンし、階層内のサブカテゴリによるこれらの値へ影響および影響の範囲を確認することができる機能です。

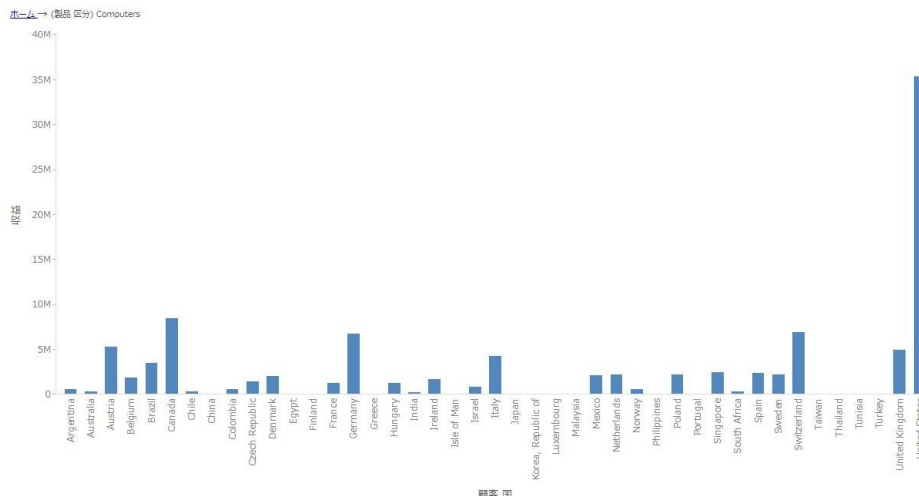
Drill Anywhere は、オートドリルダウンの強化バージョンともいえます。初期コンテンツのフ

ィールドがデータ階層の一部である必要はなく、データソース内のすべてのフィールドにドリルダウンすることができます。この強力なツールを使用して、さまざまなフィールド値間の関係をより深く理解することができます。ディメンションフィールドから、定義済みのデータ階層内の下位フィールドにドリルダウンする代わりに、**Drill Anywhere** では、ソート値にドリルダウンし、選択したフィールドのどのディメンション値がこの値のサブセットになるかを確認できます。生成されるコンテンツは、ドリルダウンした値でフィルタされます。

Drill Anywhere を使用することで、グラフの選択したライザまたはレポートの行の値に影響するディメンション値について調査することができます。たとえば、下図は、単純な棒グラフで製品区分別に集計された収益を示しています。**Drill Anywhere** がこのグラフで有効化され



Computers 製品区分のライザにマウスポインタを置き、ツールヒント内の【ドリル先 - 顧客国】をクリックすると、生成されるグラフには、各国のコンピュータの売上による収益額の情報が表示されます。以下はその例です。



作成したコンテンツで **Drill Anywhere** を有効にするには、[設定] タブの [コンテンツの設定] エリアで、[Drill Anywhere] をクリックします。コンテンツを実行すると、ドリルダウンターゲットとして使用可能なフィールドが、ツールヒントの【ドリル先】メニューに表示されます。レポートでは、ハイパーリンクをクリックしてこれらのツールヒントにアクセスできます。レポート内の **Drill Anywhere** のハイパーリンクは、すべてのソートフィールドで使用でき、任意のフィールドを行グループまたは **ACROSS** フィールドで置き換えることができます。グラフでは、ライザにマウスポインタを置くことでツールヒントにアクセスでき、このライザが示すソートフィールド値を置き換えることができます。

Drill Anywhere を使用して複数レベルにドリルスルーすることも、同一コンテンツ項目内の複数の異なるソートフィールドにドリルスルーすることもできます。**Drill Anywhere** を使用した場合、階層リンクを使用して前のドリルレベルまたは元のコンテンツに戻ることができます。また、ツールヒントで【リセット】を選択して、コンテンツ項目の元の状態に戻することもできます。

Drill Anywhere は、スタンドアロンのコンテンツ項目でのみ使用できます (独自に実行される場合または既存コンテンツで作成されたページに追加される場合)。

大規模データソースおよびストリーミングデータソースのフィルタ設定

デフォルト設定では、**WebFOCUS Designer** で作成するフィルタコントロールにはデータソースの値のリストが含まれるか、この値リストに基づいてフィルタコントロールがバインドされます。これにより、有効な値をこれらのコントロールから簡単に選択することができます。ただし、大規模データソースまたはストリーミングデータソースを使用する場合は、データソースのクエリを実行してこのリストを取得することはお勧めできません。大規模データソースでは、フィルタコントロールに表示可能な最大数を超える可能性やパフォーマンスの問題が発生する可能性があり、ストリーミングデータソースでは、値が短時間で変更される可能性があるためです。

別の方法として、単一グラフおよびレポート、または新規コンテンツによるページを作成する場合に、データソースの特定のセグメントにデータの存在しないフィルタを追加し、データの取得に必要なリソースを確保することができます。新規コンテンツで作成したページでは、このフィルタ動作は実行時にも適用されます。オートプロンプトおよび既存コンテンツから作成したページのフィルタ動作は影響を受けません。

データの存在しないフィルタコントロールが、データソースのセグメントで有効化されると、このセグメントのフィールドを使用してフィルタを作成する際に、定義済みの値のリストまたは値の範囲がフィルタコントロールに表示されません。文字フィールドおよび数値フィールドの場合、フィルタコントロールはテキストボックスとなり、ユーザが独自の値を入力できます。文字フィールドの場合は、複数の値を入力できますが、数値フィールドの場合は、値範囲の開始点と終了点を入力します。日付フィールドの場合は、フィルタはカレンダーコントロールになります。この場合、デフォルト設定で前の週のみが選択されています。したがって、有効なフィルタ値を指定するためには、データソースについてよく理解しておく必要があります。

下図は、文字フィールドに使用する、データの存在しないテキストボックスフィルタコントロールを示しています。

顧客 市区町村

すべて

データソースのサイズにより値の取得が無効です。値を手動で入力してください。

値の入力 +

すべて選択 クリア

- ☒ New York
- ☐ Chicago
- ☒ Tokyo
- ☐ Paris
- ☒ Cairo

下図は、数値フィールドの値範囲の設定に使用する、データの存在しないテキストボックスフィルタコントロールを示しています。

SUM.収益

500 : 2000

データソースのサイズにより値の取得が無効です。値を手動で入力してください。

クリア

500

2000

下図は、データの存在しないカレンダーコントロールを示しています。データ取得の実行時と同じ定義済みの日付オプションおよびカレンダー選択オプションが使用できます。デフォルト設定のカスタム日付範囲のみが影響を受けます。

売上日付

すべて

クリア

カスタム <

前月と今月

前四半期と今四半期

前年と今年

YTD (年初来)

過去 5 四半期

過去 13 か月

過去 9 四半期

過去 25 か月

前年 YTD (前年の年初来)

過去 7 日間

過去 30 日間

データソースのサイズにより値の取得が無効です。値を選択してください。

<

10月

>

2021

<

11月 2021

>

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2		1	2	3	4	5	6
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27
24	25	26	27	28	29	30	28	29	30				
31													

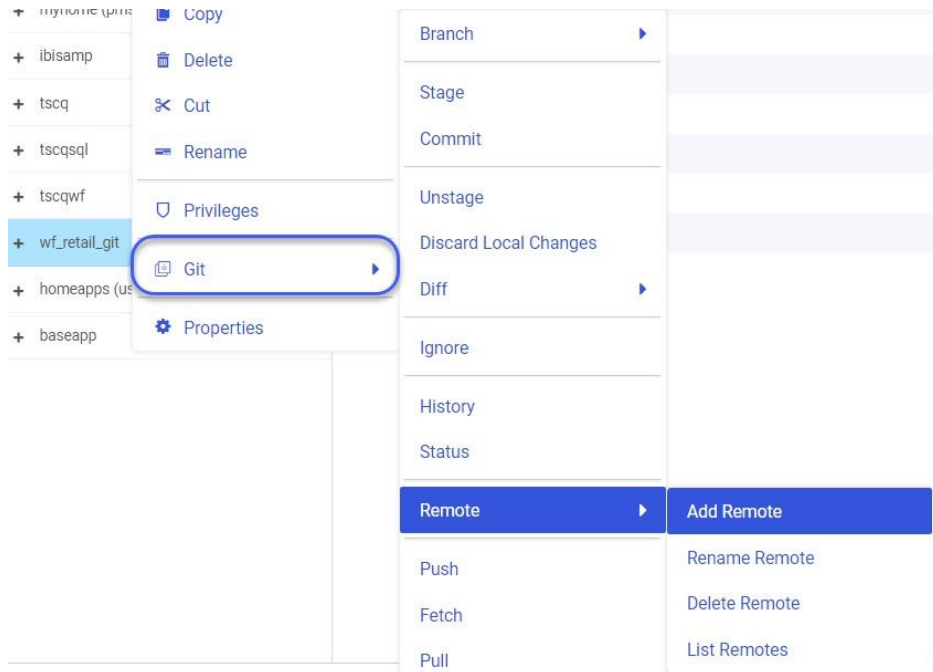
静的フィルタでは、データソースを参照しないフィルタを作成する場合に同様のオプションが使用できます。すべてのフィールドタイプで、[データから選択] オプションが使用できません。文字フィールドでは、[ファイルから選択]、[直接入力]、[ワイルドカード] のオプションが使用でき、ユーザは独自の値を指定することができます。日付フィールドでは、[範囲の選択]、[ファイルから選択]、[直接入力] のオプションが使用できます。[範囲の選択] オプションのデフォルト日付範囲は、現在の日付に初期設定されていますが、必要に応じて日付範囲の開始日と終了日を任意の日付に設定できます。数値フィールドでは、[範囲の選択]、[ファイルから選択]、[直接入力] のオプションが使用できます。値の範囲を指定する場合、スライダが削除され、範囲の開始点と終了点をテキストボックスに値を入力して指定することができます。2つのフィールドの比較でフィルタを作成する機能は影響を受けません。

データの存在しないフィルタコントロールは、シノニムのアクセスファイルにプロパティを追加することで、データソース内のセグメントで有効化されます。この場合、**DATASIZE=INFINITE** 設定を追加し、セグメントに対してデータの存在しないフィルタを有効にします。このセグメントは、データソース全体を表すことも、大規模なデータ構造内の単一テーブルを表すこともできます。つまり、データ値を取得せずに、フィルタ設定の必要がある各セグメントのフィールドに対してデータの存在しないフィルタを有効にすることができます。

単一ローカル Git リポジトリへの複数リモート Git リポジトリの関連付け

サーバのアプリケーションとしてローカル Git リポジトリを作成すると、この同一ローカルリポジトリに関連するリモート Git リポジトリを追加することができます。

下図のように、ローカル Git リポジトリを右クリックし、[Git] を選択すると、新しい [リモート] メニューが表示されます。



このメニューから次のことが行えます。

- ☐ 追加のリモートリポジトリへの接続をローカル Git リポジトリに追加する
- ☐ ローカルマシンのリモートリポジトリの名前を変更する
- ☐ ローカル Git リポジトリからリモートリポジトリへの接続を削除する

□ ローカル **Git** リポジトリに関連するリモートリポジトリを表示する

新規リモートリポジトリの追加

このローカル **Git** リポジトリに関連する新規リモートリポジトリを追加するには、ローカルリポジトリのアプリケーションを右クリックして **[Git]** を選択し、**[リモート]**、**[リモートの追加]** を順にクリックします。

下図のように、**[リモートの追加]** ウィンドウが開きます。

The screenshot shows a dialog box titled 'Add Remote'. It contains two text input fields: 'Remote Name' and 'Remote URL'. Below the inputs are two buttons: 'Cancel' and 'Add'.

リモートリポジトリの名前とリモート **URL** を入力します。**[追加]** をクリックします。

情報が正しく入力されると、リポジトリが正しく追加されましたというステータスメッセージが表示されます。

リモートリポジトリの表示

使用可能なリポジトリを表示するには、ローカル **Git** リポジトリを右クリックして **[Git]** を選択し、**[リモート]**、**[リモートの表示]** を順にクリックします。下図のように、追加したリポジトリが表示されます。

The screenshot shows a dialog box titled 'List Remote'. It contains a table with the following data:

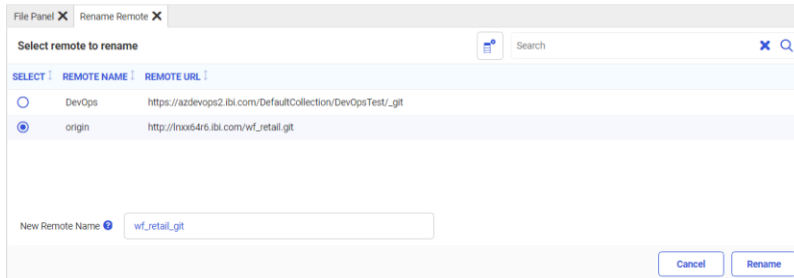
REMOTE NAME ↓	REMOTE URL ↓
DevOps	https://azdevops2.ibi.com/DefaultCollection/DevOpsTest/_git
origin	http://lnxx64r6.ibi.com/wf_retail.git

リモートリポジトリの名前変更

リモートリポジトリには当初、**[origin]** というデフォルト名が付けられています。リポジトリの名前は変更することができます。

ローカル **Git** リポジトリを右クリックして **[Git]** を選択し、**[リモート]**、**[リモート名の変更]** を順にクリックします。

下図のように、**[リモート名の変更]** ウィンドウが開きます。



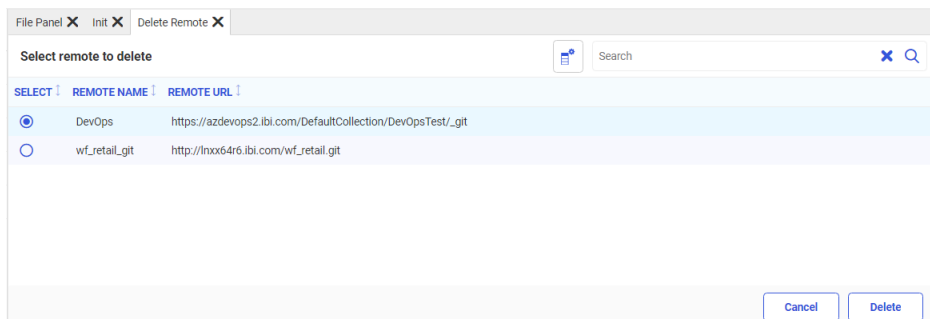
名前を変更するリポジトリのラジオボタンを選択し、**[新規リモート名]** テキストボックスに新しい名前を入力し、**[名前の変更]** をクリックします。

リポジトリ名は正しく変更されましたというステータスメッセージが表示されます。新しい名前は、このサーバにのみ適用されます。

リモートリポジトリへの接続の削除

このローカル **Git** リポジトリから関連するリモートリポジトリを削除するには、ローカルリポジトリのアプリケーションを右クリックして **[Git]** を選択し、**[リモート]**、**[リモートの削除]** を順にクリックします。

下図のように、**[リモートの削除]** ウィンドウが開きます。



削除するリモートリポジトリのラジオボタンを選択します。**[削除]** をクリックします。

リポジトリは正しく削除されましたというステータスメッセージが表示されます。

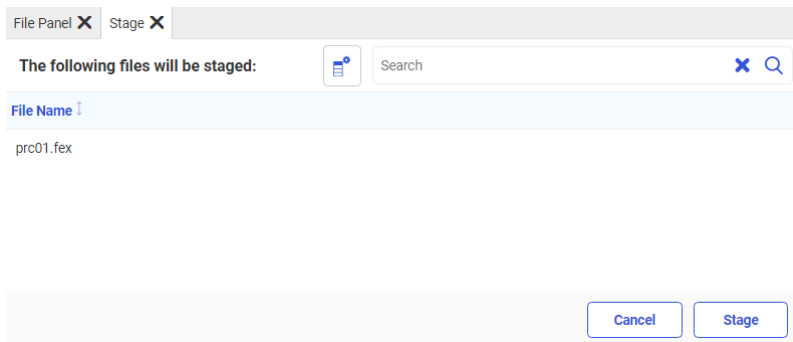
リモートリポジトリでの **Git** 操作の実行

ローカル **Git** リポジトリを使用したプッシュなどの **Git** 操作を実行する場合、操作の実行対象のリポジトリを選択する必要があります。

たとえば、ローカル **Git** リポジトリに新規プロシジャを作成する場合、この新しいファイルをリモートリポジトリにプッシュすることができます。

最初に、ローカル **Git** リポジトリを右クリックし、**[Git]**、**[ステージング]** を順に選択して、新しいコンテンツを次のコミットのために準備します。

下図のように、**[ステージング]** ウィンドウが開きます。



[ステージング] をクリックします。

変更は正しくステージングされましたというステータスメッセージが表示されます。

次にローカル **Git** リポジトリを右クリックし、**[Git]**、**[コミット]** を順に選択して、新しいコンテンツをローカル **Git** リポジトリに追加します。

下図のように、【コミット】ウィンドウが開きます。

Commit Subject

Commit Description

The following changes will be committed:

File Name	Modification Type
prc01.fex	new file

Cancel Commit

コミット内容を入力します（必須）。コミットの説明を入力することもできます（オプション）。【コミット】をクリックします。

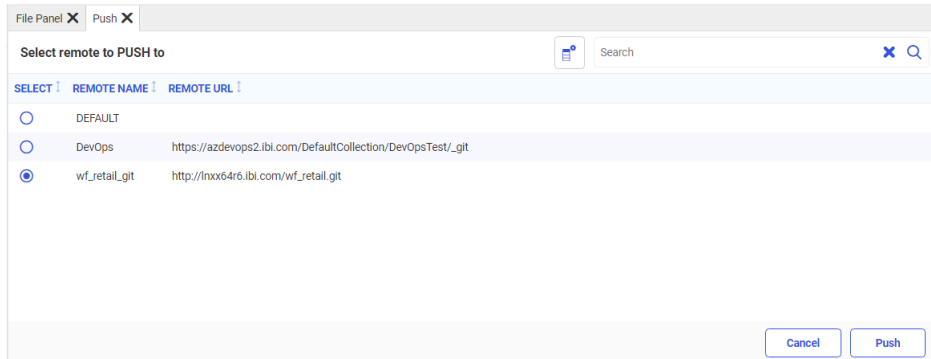
下図のように、このコミットに関するすべての情報を含むステータスメッセージが表示されます。

commit 2f71e38cbddd773b7b491a9790571c32e568e707
Author: User1 <user1@mailclient.com>
Date: Tue May 04 09:43:31 EDT 2021
Retail Cost and Revenue Report
Cost and revenue by product category

これで、変更をリモートリポジトリにプッシュすることができます。

ローカル **Git** リポジトリを右クリックして **[Git]** を選択し、**[プッシュ]** をクリックします。

下図のように、[プッシュ] ウィンドウが開きます。



変更のプッシュ先のリポジトリのラジオボタンを選択し、[プッシュ] をクリックします。

ローカルリポジトリがリモートリポジトリに対して最新である場合は、正しくプッシュされたことを示すステータスメッセージが表示されます。最新でない場合は、プッシュコマンドを発行する前にプルコマンドを発行する必要があります。

三角関数のサポート

次の三角関数が利用できるようになりました。

名前	構文	説明
arccos (アークコサイン)	<code>ACOS (expression)</code>	コサインが、入力引数として与えられる数値式の値となる角度をラジアン単位で返します。
arcsin (アークサイン)	<code>ASIN (expression)</code>	サインが、入力引数として与えられる数値式の値となる角度をラジアン単位で返します。
arctan (アークタンジェント)	<code>ATAN (expression)</code>	タンジェントが、入力引数として与えられる数値式の値となる角度をラジアン単位で返します。
arctan2 (アークタンジェント 2)	<code>ATAN2 (x, y)</code>	入力引数として与えられる x 座標と y 座標をタンジェントとする角度をラジアン単位で返します。

名前	構文	説明
cos (コサイン)	<code>COS(expression)</code>	数値入力引数のコサインを返します。これは、ラジアン単位で表される角度です。
cot (コタンジェント)	<code>COT(expression)</code>	数値入力引数のコタンジェントを返します。これは、ラジアン単位で表される角度です。
DEGREE	<code>DEGREES(expression)</code>	ラジアンを度単位に変換します。
PI	<code>PI()</code>	円周率 (Pi) の値を浮動小数点数として返します。
RADIANS	<code>RADIANS(expression)</code>	度単位をラジアンに変換します。
sin (サイン)	<code>SIN(expression)</code>	数値入力引数のサインを返します。これは、ラジアン単位で表される角度です。
tan (タンジェント)	<code>TAN(expression)</code>	数値入力引数のタンジェントを返します。これは、ラジアン単位で表される角度です。

注意: 不連続点 (例、**tan** の値が無限大になる) では、倍精度浮動小数点数フィールドに格納可能な最大数 (**16,331,239,353,195,372.00**) が返されます。この値は、**EXTENDNUM** パラメータを **OFF** に設定した場合、オーバーフローが発生し、アスタリスク (*) で表示されます。デフォルト値の **ON** では、割り当てられた領域にかかわらず、すべての値が完全に表示されます。

例 ステーション間の距離の計算

次のリクエストは、**Citibike** から利用可能な移動データを使用し、開始ステーションと終了ステーション間の距離をマイル単位で計算します。この場合、緯度と経度から 2 地点間の大圏距離を決定する半正矢関数を適用します。

```
TABLE FILE citibike_tripdata
PRINT END_STATION_NAME
COMPUTE
DISTANCE/D23.9=(3961 * ACOS (COS (RADIANS (START_STATION_LATITUDE)) * COS
(RADIANS (END_STATION_LATITUDE ))
* COS (RADIANS (END_STATION_LONGITUDE) - RADIANS (START_STATION_LONGITUDE))
+ SIN (RADIANS (START_STATION_LATITUDE)) *
SIN (RADIANS (END_STATION_LATITUDE) ))));
BY START_STATION_NAME
WHERE DISTANCE NE 0
WHERE START_STATION_NAME EQ '1 Ave & E 110 St'
ON TABLE SET PAGE NOLEAD
ON TABLE SET STYLE *
GRID=OFF,$
ENDSTYLE
END
```

出力結果は次のとおりです。

<u>start station name</u>	<u>end station name</u>	<u>DISTANCE</u>
1 Ave & E 110 St	Lexington Ave & E 111 St	.371980597
	E 106 St & 1 Ave	.222567544
	Frederick Douglass Blvd & W 129 St	1.510575647
	2 Ave & E 96 St	.741439397
	5 Ave & E 126 St	1.028921401
	Adam Clayton Powell Blvd & W 118 St	1.081102773
	2 Ave & E 96 St	.741439397
	1 Ave & E 78 St	1.651278090
	E 114 St & 1 Ave	.188221081
	Pleasant Ave & E 116 St	.318375711
	E 65 St & 2 Ave	2.282781302
	2 Ave & E 96 St	.741439397
	E 10 St & Avenue A	5.024023721
	E 81 St & 3 Ave	1.499823621
	2 Ave & E 96 St	.741439397
	2 Ave & E 96 St	.741439397
	Lexington Ave & E 111 St	.371980597
	1 Ave & E 78 St	1.651278090
	Lexington Ave & E 111 St	.371980597

負のゼロ値フォーマットのサポート

SET NEG-ZERO コマンドを使用して、負の小数値を四捨五入した結果の **0 (ゼロ)** を負の値として表示することができます。

構文 負のゼロ値の表示

`SET NEG-ZERO = {OFF|ALWAYS|EXCEL}`

説明

OFF

負のゼロ値を表示しません。これがデフォルト設定の従来の動作です。

ALWAYS

負の数値を四捨五入した結果の **0 (ゼロ)** に対し、マイナス符号を含む負のフォーマットを適用します。

EXCEL

負の数値を四捨五入した結果の **0 (ゼロ)** に対し、負のフォーマット **B**、**R**、**CR** を適用します。

Excel では、**NEG-ZERO** で設定した値にかかわらず、このスキーマを使用して常に負のゼロ値を表示します。

注意

- ❑ **NEG-ZERO** パラメータは、指数フォーマット (例、**E10.2**) には適用されません。
- ❑ **NEG-ZERO** パラメータは、表示以外の目的で四捨五入が実行される場合は適用されません。
たとえば、演算の一部として実行される浮動小数点数からパック 10 進数または整数への変換には適用されません。

例

負のゼロ値の表示

次のリクエストは、小さい負の数値を定義し、この数値を四捨五入して **0 (ゼロ)** にする数式でこれを表示します。このリクエストの次のバージョンでは、**SET NEG-ZERO** にデフォルト値の **OFF** を使用します。

```
SET NEG-ZERO = OFF
DEFINE FILE EMPLOYEE
NEGFLD/D20.2 = -0.02;
END
-RUN
TABLE FILE EMPLOYEE
PRINT LAST_NAME NEGFLD
COMPUTE NEG_BRACKET/D20.1B = NEGFLD;
COMPUTE NEG_MINUS/D20.1 = NEGFLD;
COMPUTE NEG_CR/D20.1CR = NEGFLD ;
ON TABLE SET PAGE NOLEAD
ON TABLE SET STYLE *
GRID=OFF,$
ENDSTYLE
END
```

下図は、出力結果を示しています。0 (ゼロ) の値が負の値として表記されません。

<u>LAST_NAME</u>	<u>NEGFLD</u>	<u>NEG_BRACKET</u>	<u>NEG_MINUS</u>	<u>NEG_CR</u>
STEVENS	-.02	.0	.0	.0
SMITH	-.02	.0	.0	.0
JONES	-.02	.0	.0	.0
SMITH	-.02	.0	.0	.0
BANNING	-.02	.0	.0	.0
IRVING	-.02	.0	.0	.0
ROMANS	-.02	.0	.0	.0
MCCOY	-.02	.0	.0	.0
BLACKWOOD	-.02	.0	.0	.0
MCKNIGHT	-.02	.0	.0	.0
GREENSPAN	-.02	.0	.0	.0
CROSS	-.02	.0	.0	.0

NEG-ZERO の値を EXCEL に変更すると、ブラケットネガティブフォーマット (D20.1B) およびクレジットネガティブフォーマット (D20.1CR) では負の値として表記されますが、D20.1 フォーマットでは負の値として表示されません。下図はその例です。

<u>LAST_NAME</u>	<u>NEGFLD</u>	<u>NEG_BRACKET</u>	<u>NEG_MINUS</u>	<u>NEG_CR</u>
STEVENS	-.02	(.0)	.0	.0 CR
SMITH	-.02	(.0)	.0	.0 CR
JONES	-.02	(.0)	.0	.0 CR
SMITH	-.02	(.0)	.0	.0 CR
BANNING	-.02	(.0)	.0	.0 CR
IRVING	-.02	(.0)	.0	.0 CR
ROMANS	-.02	(.0)	.0	.0 CR
MCCOY	-.02	(.0)	.0	.0 CR
BLACKWOOD	-.02	(.0)	.0	.0 CR
MCKNIGHT	-.02	(.0)	.0	.0 CR
GREENSPAN	-.02	(.0)	.0	.0 CR
CROSS	-.02	(.0)	.0	.0 CR

NEG-ZERO の値を **ALWAYS** に変更すると、ブラケットネガティブフォーマット (**D20.1B**)、クレジットネガティブフォーマット (**D20.1CR**)、**D20.1** フォーマットで負の値として表記されます。下図はその例です。

<u>LAST_NAME</u>	<u>NEGFLD</u>	<u>NEG_BRACKET</u>	<u>NEG_MINUS</u>	<u>NEG_CR</u>
STEVENS	-.02	(.0)	-.0	.0 CR
SMITH	-.02	(.0)	-.0	.0 CR
JONES	-.02	(.0)	-.0	.0 CR
SMITH	-.02	(.0)	-.0	.0 CR
BANNING	-.02	(.0)	-.0	.0 CR
IRVING	-.02	(.0)	-.0	.0 CR
ROMANS	-.02	(.0)	-.0	.0 CR
MCCOY	-.02	(.0)	-.0	.0 CR
BLACKWOOD	-.02	(.0)	-.0	.0 CR
MCKNIGHT	-.02	(.0)	-.0	.0 CR
GREENSPAN	-.02	(.0)	-.0	.0 CR
CROSS	-.02	(.0)	-.0	.0 CR

Google Analytics アダプタおよび Google Sheets アダプタ - プロキシサーバのサポート

Google Analytics および **Google Sheets** のアダプタ構成時に、[HTTP 接続詳細オプション] セクションで次のプロキシサーバのプロパティを構成するオプションが追加されました。

プロキシサーバ **IP** アドレス

プロキシサーバの **IP** アドレスです (例、**170.115.249.42**)。

プロキシポート番号

プロキシサーバのリスナポート番号です。デフォルトポート番号は **80** です。

PROXY HTTPS 相対パス

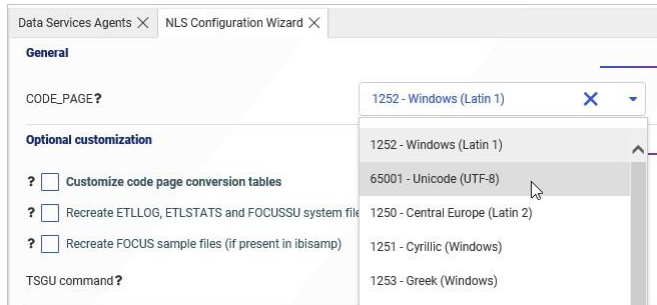
このオプションを選択すると、プロキシサーバの構成時に、絶対パスではなく相対パスが **REST** リクエストにより送信されます。

アップグレードに関する注意事項

- ❑ バージョン **8.2.07.27** では、**Gainsight** 使用状況分析のサポートが廃止されました。また、管理コンソールの **[構成]** タブの **[その他]** ページから、**[使用状況分析]** (**IBI_ANALYTICS_ENABLE**) 設定が削除されました。
- ❑ バージョン **8.2.07.25** では、弊社のサーバでホストされるオンラインヘルプがデフォルト設定で利用されるよう、**WebFOCUS App Studio** ヘルプが構成されています。このヘルプの構成は、新規インストールにも更新インストールにも適用されます。インストールパッケージからヘルプファイルが除外されたため、インストールファイルのサイズが大幅に縮小され、ソフトウェアのインストールと構成に要する時間も大幅に短縮されます。

また、**Tomcat** のインストールおよび構成オプションは使用できなくなりました。**Tomcat** はパッケージから除外され、インストールプログラムはこれらの変更を反映して調整されています。
- ❑ **WebFOCUS 8.2.07.15** では、**ALLOW-NOPRINT** のデフォルト値が **ON** に設定されています。新しい **Designer** スタイル (**ARVERSION=2**) を使用した **AHTML** レポートでは、**[オプション]** メニューから新しいコンポーネントを作成する際に、非表示または **NOPRINT** フィールドが選択できます。これらのフィールドは、列タイトルメニューからグラフ、集約、ピボットを作成する際のフィールドリストにも表示されます。

- ❑ バージョン 8.2.06 から 8.2.07 にアップグレードする場合、WebFOCUS 統合インストールでは、Reporting Server の構成に Unicode UTF-8 (CP65001) コードページが自動的に割り当てられません。UTF-8 コードページを使用するよう Reporting Server を構成するには、下図のように、[CODE_PAGE?] リストから直接エントリを選択します。Web コンソールでは、このリストは、[ワークスペース] ページの [NLS 構成ウィザード] タブに表示されます。



バージョン 8.2.07 では、WebFOCUS 統合インストールですべてのインストール済みコンポーネントが UTF-8 コードページを使用するよう構成されるため、この変更を適用することをお勧めします。Reporting Server のコードページを UTF-8 に変更することで、WebFOCUS、Tomcat、Reporting Server 間でデータ取得時の問題につながるコードページの不一致がなくなります。

- ❑ バージョン 8.2.07 では、Magnify 機能は使用できません。
- ❑ バージョン 8.2.07 では、App Studio の構成済み環境ツリーの [ドメイン] ノードの名前が [ワークスペース] ノードに変更されました。
- ❑ 8.2.07 より前のバージョンでは、Oracle Database 12c データソースを使用してコンテンツを作成する際に、デザイン時の最大レコード数が集計前に適用されていました。バージョン 8.2.07 以降では、Oracle Database 12c を使用した最大レコード数は集計後に適用されます。
- ❑ Microsoft は、Azure Data Warehouse 製品の名前を Azure Synapse Analytics に変更しました。この製品名の変更に伴い、アダプタの名前も変更されています。
- ❑ Web コンソールでのデータフローの作成または編集で、実行予定のフローをスケジュールするオプションが追加されました。

フローをスケジュール実行するためには、スケジューラのアプリケーションパス上のディレクトリに保存する必要があります (ユーザ ID は、`sched_scan_id` に設定)。

- ❑ **OpenSSL** ライブラリは、**UNIX** および **Windows** 環境で実行時に動的にロードされます。これらのライブラリをインストールし、サーバの起動時に `PATH`、`IBI_LOAD_SSL_FROM`、`IBI_LIBPATH` のいずれかの環境変数の値にこれらのパスを指定して、サーバで利用可能にしておく必要があります。

OpenSSL ライブラリ **v1.1.1** および **v1.0.2** がサポートされます。

現在のランタイムバージョンは、`edaserve.cfg` の次の構成キーワードによって異なります。

```
ssl_lib_vendor = {sslv11|sslv10}
```

`ssl_lib_vendor` のデフォルト値は、`sslv11` です。

また、環境変数 `IBI_LOAD_SSL_FROM` または `IBI_LIBPATH` を設定し、適切な **OpenSSL** ライブラリを指定する必要もあります。

```
ssl_lib_vendor = sslv11
IBI_LIBPATH=/usr/local/ssl64/1.1.1/lib
```

または

```
ssl_lib_vendor = sslv10
IBI_LIBPATH=/usr/local/ssl64/1.0.2/lib
```

注意: **OpenSSL-1.1.1** は、**Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8** 以降ではデフォルト設定で使用できますが、**RHEL 7** 以前のソースから作成される必要があります。

- ❑ データの準備機能を使用中、および **JOIN**、**UNION**、**SQL**、またはターゲットビジネスビューエディタを使用して **SELECT** ステートメントを編集時に、**[X]** (閉じる) アイコンをクリックした場合、**[キャンセル]** ボタンを押しても変更はすべて破棄されていました。このバージョンでは、この動作が変更され、確認ダイアログボックスが開いて、変更を破棄するかどうかの確認が要求されるようになりました。- ❑ 接続の構成時またはデータのアップロード時にパラメータを入力するプロパティパネルが、シンプルで統一感のあるユーザインターフェースでデザイン一新され、さらに使い勝手がよく、画面上のヘルプもより明確になりました。

ツールヒントは、各プロパティのヘルプアイコン上にマウスポインタを置くと表示されます。

ヘルプアイコンをクリックすると、より詳細なヘルプが表示されます。

一部のパラメータについては、[サンプル値の表示] をクリックするとサンプル値が使用できます。

- ❑ メタデータおよびデータフローエディタでは、Web コンソールの [WebFOCUS Server] ログからメニューにアクセスできることを示すために、下向き矢印が追加されました。
- ❑ メタデータエディタでは、データプロファイリンググラフおよびレポートがすべて、出力ウィンドウ内の新しいタブで開くようになりました。以前のバージョンでは、一部のグラフが新しいウィンドウで開いていました。
- ❑ 以前のバージョンでは、日付または日付時間フィールドを含むシノニムを作成する場合、日付構成要素および構成要素の組み合わせごとに、8 つの追加一時項目 (DEFINE) が自動的に生成されていました。

これにより、シノニムのサイズが大きくなり、開いたり編集したりする際に時間がかかっていました。このバージョンでは、このオプションはデフォルト設定で無効になっています。日付構成要素を生成する必要がある場合は、[データの取得] ページで [日付の分解] を有効にすることができます。シノニム作成時に常に有効になるよう [日付の分解] を有効にするには、[共通アダプタの設定] のリンクをクリックします。[データタイプマッピングのカスタマイズ] セクションで、[日付フィールドを日付構成要素に分解] の設定を [オン] にします。

- ❑ 式エディタには、式に追加可能なオブジェクト (フィールド、変数、関数) を表示するエリアがあります。このセクションおよびオブジェクトの表示は、このエリア上部のボタンで制御できましたが、エリアのサイズが圧縮されるとボタンの一部が非表示になっていました。このバージョンでは、表示するオブジェクトを選択できるドロップダウンメニュー付きの単一ボタンに変更されました。
- ❑ Designer の [データ] タブまたは Web コンソールで、[表示] ショートカットメニューから [タイトルの表示] を選択すると、シノニムの列にフィールドタイトルが含まれない場合は、エイリアスではなく、デフォルトの列名がフィールド名になります。これにより、Designer および InfoAssist とデータの準備機能で同一のフィールド名を表示することができます。
- ❑ キーを使用せずにファイルまたはテーブルを結合する場合、一致するフィールド名に基づいて自動的に作成される JOIN について、JOIN フィールドの組み合わせの数が最大 3 つまでに制限されます。これにより、特にテーブルをそれ自体に結合する場合に、過剰なフィールド数での JOIN を回避することができます。

- ❑ **Designer** の [データ] タブまたは **Web** コンソールで、プロファイルグラフフィールドまで縦方向にスクロールして編集後に、このプロファイルグラフを再ロードすると、編集したプロファイルグラフの表示が保持されるようスクロールバーが配置されます。編集したプロファイルグラフを表示するために、スクロールする必要はありません。

ソフトウェアのブランド変更について

以下に示す各製品のバージョン以降、**Information Builders** のソフトウェアおよび関連するマニュアルと資料が、**TIBCO® Software Inc** 社のブランドに変更されます。

- ❑ **WebFOCUS 8.2.07.27.0**
- ❑ **FOCUS 8.2.07.27.0**
- ❑ **iWay Service Manager 8.0.5**
- ❑ **Omni-Gen 3.16.0**

この変更は、これらの製品の名称にのみ影響します。たとえば、**WebFOCUS** は **TIBCO WebFOCUS** になり、**iWay DataMigrator** は **TIBCO Data Migrator** になりました。この変更は、ソフトウェアおよび関連するマニュアルと資料全般（例、PDF 資料の表紙）に反映され、以前の製品名は新しい製品名で置換されます。下表は、すべてのソフトウェアのブランドを示しています。

以前の製品名	新しい製品名
WebFOCUS	TIBCO WebFOCUS®
WebFOCUS Client	TIBCO WebFOCUS® Client
WebFOCUS Server	TIBCO WebFOCUS® Reporting Server
iWay DataMigrator Server	TIBCO WebFOCUS® Reporting Server
iWay DataMigrator	TIBCO® Data Migrator
WebFOCUS App Studio	TIBCO WebFOCUS® App Studio
WebFOCUS Mobile App	TIBCO WebFOCUS® Mobile App
WebFOCUS インフォグラフィック	TIBCO WebFOCUS® インフォグラフィック
WebFOCUS Narrative Charts	TIBCO WebFOCUS® Narrative Charts

iSM (iWay Service Manager)	TIBCO iWay® Service Manager
Omni-Gen	TIBCO Omni-Gen®
Omni Master Data Management	TIBCO Omni-Gen® MDM
Omni for Customer	TIBCO Omni-Gen® MDM
Omni-HealthData	TIBCO Omni-HealthData®
Omni-Insurance	TIBCO Omni-Insurance™
Data Quality	TIBCO Omni-Gen® Data Quality
FOCUS	TIBCO FOCUS®

関連マニュアルおよび資料のブランド変更について

バージョン 8.2.07.27 以降、**Information Builders** の製品は、**TIBCO® Software Inc** 社のブランドに変更されます。この変更は、ソフトウェアおよび関連するマニュアルと資料全般（例、PDF 資料の表紙）に反映され、以前の製品名は新しい製品名で置換されます。ソフトウェアブランドの一覧については、「ソフトウェアのブランド変更について」を参照してください。

下表は、このバージョンで変更された PDF マニュアルのタイトル一覧を示しています。これらのマニュアルおよび関連資料へのアクセス方法に変更はありません。ブランド変更に伴うマニュアルおよび資料の記述変更については、今後も随時お知らせする予定です。

以前のタイトル	新しいタイトル
TIBCO WebFOCUS®	
WebFOCUS App Studio インストールガイド	WebFOCUS App Studio インストールガイド
WebFOCUS App Studio 利用ガイド	WebFOCUS App Studio 利用ガイド
WebFOCUS HTML5 (JSCHART) リファレンス	WebFOCUS HTML5 (JSCHART) リファレンス
WebFOCUS Language リファレンス	WebFOCUS Language リファレンス
WebFOCUS メタデータリファレンス	WebFOCUS メタデータリファレンス

WebFOCUS 埋め込みアプリケーションガイド	WebFOCUS 埋め込みアプリケーションガイド
WebFOCUS InfoAssist 利用ガイド	WebFOCUS InfoAssist 利用ガイド
WebFOCUS インストールガイド for UNIX/Linux	WebFOCUS インストールガイド for UNIX/Linux
WebFOCUS インストールガイド for Windows	WebFOCUS インストールガイド for Windows
WebFOCUS 統合インストールガイド	WebFOCUS 統合インストールガイド
Using the WebFOCUS Mobile App for iOS and Android	Mobile App for iOS and Android
WebFOCUS サーバ管理者ガイド	WebFOCUS サーバ管理者ガイド
Server Installation	Reporting Server Installation
Server Release Notes	Reporting Server and TIBCO® Data Migrator Release Notes
WebFOCUS セキュリティ管理ガイド	WebFOCUS セキュリティ管理ガイド
WebFOCUS Security and Administration Best Practices	Security and Administration Best Practices
WebFOCUS 利用ガイド	WebFOCUS 利用ガイド
TIBCO® Data Migrator	
Server Release Notes	Reporting Server and TIBCO® Data Migrator Release Notes
iWay Data Migrator User's Guide	User's Guide

ESRI 人口統計レイヤ 2010 年版および 2012 年版の廃止

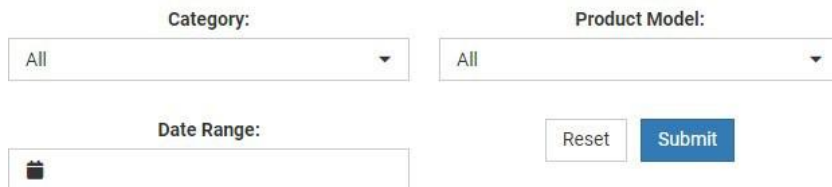
2021 年 6 月に、ESRI は、2010 年米国情勢調査のデータに基づく一部の人口統計マップサービスのサポートを終了しました。これらのマップサービスの一部は、人口統計レイヤとして使用され、WebFOCUS のデフォルトインストールの一部として構成されていました。この影響を受ける人口統計レイヤは、今後 WebFOCUS マップに表示されません。廃止となった人口統計レイヤは次のとおりです。

- ☐ USA Population Density -2012
- ☐ USA Population Change 2000-
- ☐ USA Population Change 2010-
- ☐ USA Projected Population Growth 2012-
- ☐ USA Median Household Income
- ☐ USA Population Older than Age
- ☐ USA Unemployment Rate
- ☐ USA Median Home Value
- ☐ USA Population Younger than Age
- ☐ USA Average Household Size
- ☐ USA Median Net Worth
- ☐ USA Owner Occupied Housing
- ☐ USA Labor Force Participation Rate
- ☐ USA Population By Sex
- ☐ USA Tapestry Segmentation 2012

廃止になったレイヤについての詳細は、<https://doc.arcgis.com/en/esri-demographics/reference/legacy-demographic-maps.htm> を参照してください。

作成済みページでのリセットボタンと実行ボタンの順序変更

WebFOCUS Designer で既存コンテンツから新規ページを作成する場合、フィルタ選択のリセットまたは適用に使用する **【リセット】** ボタンと **【実行】** ボタンの順序が入れ替わりました。下図のように、**【リセット】** ボタンが左側、**【実行】** ボタンが右側に表示され、**WebFOCUS** のユーザーインターフェースで使用される標準のボタン順序に統一されました。



The screenshot shows a filter configuration area with two dropdown menus at the top: 'Category:' and 'Product Model:', both set to 'All'. Below these is a 'Date Range:' section with a calendar icon. To the right of the date range are two buttons: 'Reset' and 'Submit'. The 'Reset' button is now on the left and the 'Submit' button is on the right, matching the standard UI order.

これらのボタンを使用して以前に作成したページが影響を受けることはありません。また、**【リセット】** または **【実行】** ボタンを各セルの反対側にドラッグして、この順序を手動で変更することもできます。

WebFOCUS Designer のウィンドウの表示/非表示メニューの移動

WebFOCUS Designer でグラフ、レポート、ページを作成する場合、**【ウィンドウの表示/非表示】** メニュー

 を使用して、リソースパネル、**【設定】** タブと **【フォーマット】** タブを含むプロパティパネル、コンテンツの選択オプションを表示または非表示にすることができます。ユーザーインターフェースのこれらのセクションを非表示にすることで、より広い画面領域をキャンバスに使用することができ、作成中のコンテンツをより明確に表示することができます。

【ウィンドウの表示/非表示】 メニューは、ビジュアライゼーションツールバーから、**【ヘルプ】** ボタン横の **WebFOCUS Designer** ツールバーに移動しました。下図は、**WebFOCUS Designer** ツールバーを示しています。



既知の問題

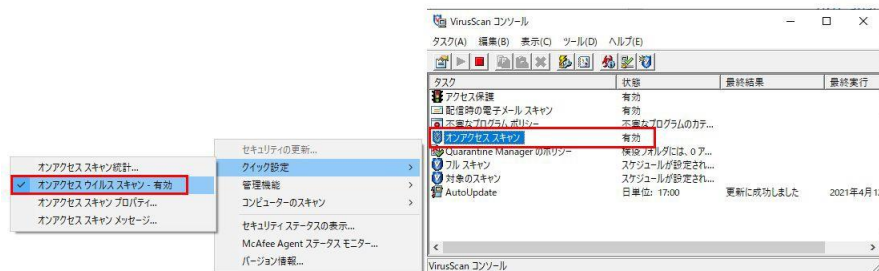
- ❑ **WebFOCUS** バージョン **8.2.07.27** では、**ESRI** マップの第 2 レベルについて、新規ライセンスがサポートされていません。第 2 レベルライセンスを所有する既存ユーザは、引き続きこれらのライセンスを使用できます。
- ❑ **setup_dm_client** (**TIBCO Data Migrator** クライアントインストール) および **setup_odbc_client** (**Open Visualization** クライアントインストール) の **Windows** サイレントインストールは、オプションファイルのパスにブランクが含まれる場合に失敗します。

この問題を回避するため、オプションファイルのパスにブランクが含まれていないことを確認してください。
- ❑ **InfoAssist** でのコンテンツ作成時に、変数を定数値として渡すドリルダウンを追加すると、コンテンツを保存して再度開く際に、ドリルダウンで渡された値が **【ドリルダウン】** ダイアログボックスのフィールドに変更されます。内部的には、編集されない限りドリルダウンは変更されません。
- ❑ **WebFOCUS Designer** での積み上げ棒グラフ、積み上げ面グラフ、積み上げ折れ線グラフの作成時に、**【フォーマット】** タブの **【シリーズ】** オプションで **【積み上げ合計の表示】** を選択すると、グラフの各棒または点の上部に積み上げライザの合計値を表示することができます。また、シリーズレベルのデータラベルを使用して、各シリーズの値を表示し、積み上げライザのサブセットを示すこともできます。シリーズレベルのデータラベルの位置が **【上】** に設定された場合、最上位シリーズのラベルと積み上げライザの合計ラベルが重なり合って表示される場合があります。この問題を回避するには、**【位置】** メニューから別のオプションを選択します。
- ❑ **SQL** ステートメントを使用して **Developer Workbench** で作成したレポートを実行したり、再度開いたりする場合にエラーが発生します。
- ❑ バージョン **8.2.07.19** では、**WebFOCUS** アプリケーションの展開時に、**McAfee VirusScanEnterprise** により **WebFOCUS JSP** ファイルのコンパイルが妨げられます。

この問題が発生すると、エラーがアプリケーションログおよび **event.log** に収集されます。エラーは、**WebFOCUS** への接続を試行する際にブラウザにも表示されます。

```
WARN [http-nio-8080-exec-1: URLFilter] admin - Monitor.URLFilter caught
exception: org.apache.jasper.JasperException msg: Unable to compile
class for JSP
org.apache.jasper.JasperException: Unable to compile class for JSP
Stacktrace:Stacktrace: at
org.apache.jasper.servlet.JspServletWrapper.handleJspException(JspServlet
Wrapper.java:617) ~[jasper.jar:8.5.51] at
org.apache.jasper.servlet.JspServletWrapper.service(JspServletWrapper.jav
a:499) ~[jasper.jar:8.5.51] at
org.apache.jasper.servlet.JspServlet.serviceJspFile(JspServlet.java:386)
~[jasper.jar:8.5.51] at
org.apache.jasper.servlet.JspServlet.service(JspServlet.java:330)
~[jasper.jar:8.5.51] at
javax.servlet.http.HttpServlet.service(HttpServlet.java:741) ~[servlet-
api.jar:?] at
org.apache.catalina.core.ApplicationFilterChain.internalDoFilter(Applicat
ionFilterChain.java:231) ~[catalina.jar:8.5.51] at
org.apache.catalina.core.ApplicationFilterChain.doFilter(ApplicationFilter
Chain.java:166) ~
```

この問題を回避するには、下図のように、**WebFOCUS** および **McAfee VirusScan Enterprise**がインストールされたマシンで、**Windows** のシステムトレイまたは **VirusScan** コンソールから **McAfee** オンアクセススキャンを再起動します。



別の方法として、**WebFOCUS** インストールディレクトリを **McAfee** のスキャン対象から除外する方法もあります。

この問題は、**McAfee Endpoint** または **McAfee Total Protection** では発生しません。

注意: **McAfee VirusScan Enterprise (VSE) 8.8** は、**McAfee Endpoint** (最新バージョンは **10.7**)

に置換されており、**McAfee** では、このエディションへの移行を推奨しています。

<https://www.mcafee.com/enterprise/en-us/products/virusscan-enterprise.html>

ブラウザ情報

このバージョンは、**Google Chrome** バージョン **92**、**Firefox** バージョン **90**、**Microsoft EdgeChromium** バージョン **92 (WebFOCUS のみ)** でテスト済みかつ動作保証されています。**Internet Explorer** 互換モードはサポートされません。

バージョン **8.2.07.27.0** 以降、**TIBCO WebFOCUS** の新しいリリースでは、**Internet Explorer 11** が動作保証済みブラウザとしてサポートされません。この変更は、**2021 年 4 月 1 日**より有効です。

2

リリース情報

TIBCO WebFOCUS バージョン **8.2.07** の関連情報は、各トピックから参照できます。

トピックス

- ❑ [ブラウザ情報](#)
- ❑ [TIBCO WebFOCUS のアクセシビリティ準拠](#)
- ❑ [TIBCO WebFOCUS Client でサポートされるオペレーティングシステム](#)
- ❑ [TIBCO WebFOCUS での Java SE のサポート](#)
- ❑ [サポート対象の Web サーバおよび Application Server](#)
- ❑ [サポート対象の RDBMS およびドライバ](#)
- ❑ [ローカリゼーション \(NLV\) および NLS の制限事項](#)
- ❑ [TIBCO WebFOCUS レポート および Microsoft Office のサポート](#)

ブラウザ情報

ここでは、**WebFOCUS** バージョン **8.2.07** で使用可能な **Web** ブラウザについて説明します。

- ❑ 弊社では、ブラウザベンダーのサポートポリシーを評価し、最新バージョンが使用可能になり次第、随時新しいブラウザバージョンを動作保証します。
- ❑ 以下のブラウザベンダー使用要件を参照して、最新の **Web** ベース機能を提供する **Web** 標準がサポートされ、セキュリティの保証されたブラウザを使用することをお勧めします。

サポート対象の **Web** ブラウザ

バージョン	Google Chrome	Firefox	Microsoft Edge (WebFOCUS のみ)
8.2.07.28	バージョン 92	バージョン 90	バージョン 92 (WebFOCUS)

- ❑ バージョン **8.2.07.27.0** 以降、TIBCO WebFOCUS の新しいリリースでは、Microsoft Internet Explorer 11 が動作保証済みブラウザとしてサポートされません。この変更は、2021 年 4 月 1 日より有効です。
- ❑ Internet Explorer 互換モードはサポートされません。
- ❑ Microsoft Edge ブラウザは、TIBCO WebFOCUS App Studio ではサポートされません。
- ❑ Firefox ブラウザバージョンサポートについての詳細は、Mozilla から公開されている次の Web サイトを参照してください。https://wiki.mozilla.org/Release_Management/ESR_Landing_Process
- ❑ WebFOCUS で作成した単純な HTML レポートは、任意のブラウザで表示することができます。
- ❑ 一部のブラウザバージョンで使用可能な組み込み PDF ビューアを使用する際に、ドリルダウンリンクが機能しません。ブラウザの構成情報を確認し、関連するコンテンツタイプのアプリケーションオプション設定を変更することで、ブラウザで自動的に Adobe Reader が起動するよう調整します。
- ❑ Acrobat Reader DC は動作保証されています。Adobe XI および Adobe X はサポートされています。
- ❑ 特定の状況下では、Microsoft Internet Explorer でページを表示する際に、Web ページで指定されたモードと異なるドキュメントモードでページが強制的に表示される場合があります。詳細は、「[Internet Explorer Browser Document Compatibility](#)」を参照してください

- ❑ クライアントのブラウザに基づいてイメージ埋め込み機能を使用することにより、HTML レポート、DHTML レポート、DHTML 複合レポートでのイメージおよびグラフの表示がサポートされます。**Microsoft Internet Explorer** ブラウザで生成される出力、またはブラウザが不明な状況 (例、**ReportCaster** から配信されるレポート) では、**Web** アーカイブファイル (**.mnt**) を作成することでイメージが組み込まれます。その他すべてのブラウザでは、イメージは、生成される **.html** ファイル内で **base64** エンコードされます。
- ❑ **Windows 2012 R2** オペレーティングシステムで **Microsoft Internet Explorer 11** を使用し、**InfoAssist** で作成したレポートやグラフなどのオブジェクトを実行すると、そのオブジェクトがターゲット先の特定のフレームで開く代わりに、**Microsoft Internet Explorer 11** の新しいウィンドウで開きます。たとえば、**InfoAssist** で **[新規ウィンドウ]** を選択すると、新しいブラウザウィンドウが開き、実行中イメージが表示された後、そのページが出力結果で置き換えられます。**Microsoft Internet Explorer 11** ではそのウィンドウを置き換えることができないため、代わりに新しいウィンドウが開きます。このブラウザ制限は、**管理者**が修正することができます。
- ❑ 特定のブラウザでは、独自の最大バイト数をツールヒントのテキストに適用するため、長いツールヒントは末尾が切り取られて表示される場合があります。たとえば、**Microsoft Internet Explorer** では、この最大バイト数は **512** バイトですが、**Google Chrome** では **1024** バイトです。

TIBCO WebFOCUS のアクセシビリティ準拠

TIBCO Software Inc. は、障害あるユーザを含むすべてのユーザにアクセス可能で使いやすく、質の高い製品とサービスを提供します。

アクセシビリティのサポート基準

TIBCO Software Inc. は、次の基準に基づき **WebFOCUS** のアクセシビリティを確保します。

弊社のアジャイル開発プロセスは、**WCAG 2.1** レベル **AA**、**改定セクション 508**、および **欧州規格 EN 301 549** の標準およびガイドラインに沿ったアクセシビリティ評価を、設計、開発、テストのすべての段階で取り入れています。コーディングは、**HTML**、**CSS**、**WAI-ARIA**、**JavaScript** で **W3C** 標準に準拠しています。

TIBCO Software Inc. は、アクセシビリティ標準およびガイドラインに準拠したアプリケーションの作成が可能なソフトウェアツールを提供することで、顧客のアクセシビリティ目標達成に貢献します。各アプリケーションの実際のアクセシビリティ準拠は、**TIBCO Software Inc.** 社製ツールの適切な使用、および弊社ソフトウェアと相互運用する他社製ハードウェアおよびソフトウェアのアクセシビリティ準拠によって異なります。

サービスについて、TIBCO Software Inc. は、顧客と協調し、サービス契約に関するアクセシビリティ要件に取り組んでいます。TIBCO Software Inc. は、必要なアクセシビリティ標準およびガイドラインに準拠する適切な作業指示書で、顧客に対してアクセシビリティ要件を求めます。TIBCO Software Inc. は、顧客の要件に特化した COTS 製品のアクセシビリティ機能を提示し、提示された機能を使用して開発を進める前に顧客の承認を取得します。

適合ステータス

WebFOCUS バージョン 8.2.07.28 は、次のアクセシビリティ標準およびガイドラインに部分的に適合しています。部分的適合とは、コンテンツの一部がアクセシビリティ標準に完全に適合していないことを示します。詳細は、68 ページの「[アクセシビリティ機能の範囲](#)」、70 ページの「[制限事項](#)」、[WebFOCUS 8207 Accessibility Conformance Report \(VPAT 2.4 INT\)](#) を参照してください。

標準およびガイドライン	レポート内に記載
Web Content Accessibility Guidelines 2.0	レベル A レベル AA
Web Content Accessibility Guidelines 2.1	レベル A レベル AA
Revised Section 508 standards published 01/18/2017 and corrected	
EN 301 549 Accessibility requirements suitable for publish procurement of ICT products and services in Europe - V3.1.1.(2019-11)	

アクセシビリティ機能の範囲

WebFOCUS バージョン 8.2.07.28 では、Designer ページおよび WebFOCUS アクセシブルレポートを含む、アクセシビリティ機能を備えた WebFOCUS の 2 レベルトップナビゲーションV5ポータルを作成、公開するためのツールとガイダンスを設計者に提供し、エンドユーザーによる独自の **adhoc** クエリおよびレポート作成の実行を可能にします。アクセシビリティ機能には、コンテンツ作成 (開発) および管理インターフェースは含まれません。

アクセシビリティ機能を備えた **WebFOCUS** レポートには、次のフォーマットがあります。

- ❑ **Analytic Document (Active テクノロジ) -**
- ❑ **AHTMLExcel - XLSX**
- ❑ **PDF - 『WebFOCUS Language リファレンス』マニュアルの「WebFOCUS PDF レポートのアクセシビリティサポート (<https://webfocusinfocenter.informationbuilders.com/wfDesigner/pdfs6/wf8206crlang.pdf>)」を参照**
- ❑ **PowerPoint - PPTX**
- ❑ **HTML - 「Technical Memo 4505 - WebFOCUS HTML レポートのアクセシビリティサポート」を参照**

アクセシビリティ機能を備えた **WebFOCUS** レポートは、**Web** ページまたはアプリケーションから配信、実行できます。**Web** ページまたはアプリケーションのアクセシビリティ準拠については、設計者が責任を負います。

WebFOCUS バージョン **8.2.07.12** 以前の **8.2.07** リリースでは、次の **WebFOCUS** アクセシビリティ準拠レポートフォーマットがサポートされます。

- ❑ **PDF - 『WebFOCUS Language リファレンス』マニュアルの「WebFOCUS PDF レポートのアクセシビリティサポート (<https://webfocusinfocenter.informationbuilders.com/wfDesigner/pdfs6/wf8206crlang.pdf>)」を参照**
- ❑ **HTML - 「Technical Memo 4505 - WebFOCUS HTML レポートのアクセシビリティサポート」を参照**

ブラウザ互換性および支援テクノロジー

テストは、さまざまなオペレーティングシステム、ブラウザ、テスト自動化ツール、スクリーンリーダーを使用して実行されました (例、**Windows 10** オペレーティングシステム、**Google Chrome** ブラウザ、**NVDA** または **JAWS 2020** スクリーンリーダー)。

Google Chrome、**Firefox**、**Microsoft Edge**、**Microsoft Internet Explorer** ブラウザについては、ユーザのカスタマイズ、支援テクノロジーおよび他社製拡張機能との統合によりサポートレベルが異なります。

JAWS ブラウザ要件についての詳細は、**Freedom Scientific** の **Web** サイトを参照してください

テクノロジー仕様

WebFOCUS のアクセシビリティは、次の技術に依存し、**Web** ブラウザおよび支援テクノロジー、またはユーザの **PC** にインストールされたプラグインとの特定の組み合わせにより機能します。

- ❑ **HTML**
- ❑ **WAI-ARIA**
- ❑ **CS**
- ❑ **JavaScript**

上記のテクノロジーは、適用されるアクセシビリティ標準に準拠するために使用されます。

制限事項

WebFOCUS のアクセシビリティ機能を確実に利用できるよう万全を期していますが、一部に制限事項があることも考えられます。アクセシビリティ機能 (68 ページの「[アクセシビリティ機能の範囲](#)」を参照) の使用に問題がある場合は、技術サポートに問い合わせてください。また、追加機能に対するアクセシビリティ準拠のリクエストについても、技術サポートに問い合わせてください。

既知の制限事項

- ❑ アクセシビリティ機能 機能の範囲は、68 ページの「[適合ステータス](#)」に記載されているとおりです。
- ❑ 非テキストコンテンツ、代替テキスト **WebFOCUS 8.2.07** は、コンテンツ作成者に代替テキストを追加する方法を提供し、このコンテンツはスクリーンリーダーで読み取られます。ただし、説明的代替テキストの提供は、コンテンツ作成者に委ねられます。
- ❑ 感覚的情報 (ビジュアライゼーション/グラフ) アクセシビリティのベストプラクティス準拠は、コンテンツ作成者に委ねられますが、**WebFOCUS 8.2.07** は、今後のリリースで、ビジュアライゼーションおよびグラフでの感覚的情報の伝達について、強化された代替方法を提供します。
- ❑ リフロー データテーブルは、テーブルとして動作し、リフローされません。
- ❑ 見出しおよびラベル **WebFOCUS 8.2.07** は、適切な見出しおよびラベルを追加する方法をコンテンツ作成者に提供し、このコンテンツは、スクリーンリーダーで読み取られます。ただし、ベストプラクティスの導入によるアクセシビリティの維持は、コンテンツ作成者に委ねられます。

- ❑ 一部の言語 言語は、メタレベルでドキュメントに適用されます。
- ❑ 機能的遂行基準（言語障害、認知障害、学習障害） **WebFOCUS 8.2.07** のデータテーブルは複雑であり、拡張機能を提供します。対象ユーザの機能上の要件を特定し、**WebFOCUS** レポートプロシジャ作成時にこれらの考慮事項を適用することは、コンテンツ作成者の責任です。
- ❑ 利用可能な操作の全般 (情報) リスト **V5** ポータル、**Designer** ページ、**Analytic Document (AHTML)** では、利用可能な操作は「**Ctrl+Shift+F10**」を押すとアクセスできます。
- ❑ 変更通知 オンラインヘルプの今後のリリースで改善される予定です。
- ❑ 製品マニュアル【オンラインヘルプ】セクションのアクセシビリティは、今後のリリースで改善され、利用可能になります。現在のバージョンでは、次のような問題が発生する可能性があります。
 - ❑ 拡大表示での判読性の低下
 - ❑ 左側ウィンドウから右側ウィンドウへの移動困難
 - ❑ 印刷メニューのポップアップが、**Esc** キーの使用またはポインタの移動でも閉じることができない

TIBCO WebFOCUS Client でサポートされるオペレーティングシステム

下表は、**WebFOCUS Client** でサポートされるオペレーティングシステムを示しています。

ベンダー (プロセッサ/アーキテクチャ)	オペレーティングシステムバージョン
Microsoft Windows 64 ビット	Windows Server 2019 Oracle Java 8 をマシンにインストールする必要があります。詳細は、製品のインストールマニュアルを参照してください。 Windows Server 2016、2012 R2、2012 Windows 10 (開発環境のみに限定) AIX 7.2、AIX 7.1
IBM (pSeries 64)	

ベンダー (プロセッサ/アーキテクチャ)

オペレーティングシステムバージョン

Oracle (Sparc 64-bit)

Oracle Solaris 11

Oracle Solaris 10

Oracle (x86)

Oracle Solaris 11

Oracle Solaris 10

Red Hat (x86_64)

Enterprise Linux 6.1 / Kernel
2.6.32 -glibc-2.6 以降Enterprise Linux Kernel-3.10.0-glibc-
2.17 以降

Red Hat (IBM Power Systems)

Enterprise Linux 6.1 / Kernel
2.6.32 -glibc-2.6 以降

Hewlett Packard (Itanium IA64)

HP-UX 11i (11.31)

TIBCO WebFOCUS での Java
Platform、Standard Edition (Java SE) のサポート

ここでは、WebFOCUS および ReportCaster Web アプリケーションの展開先としてサポートされる各種 Java SE バージョンの WebFOCUS リリース情報について説明します。また、Java ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする前に、Web アプリケーションサーババージョンの Java バージョン要件を確認することも重要です。

注意事項

- ❑ Java SE の同一バージョンレベルでのメンテナンスアップデートもサポートされます。
- ❑ 新しい JDK バージョンと WebFOCUS の以前のバージョンとの使用はサポートされます。ただし、一部の問題を解決するために、新しいバージョンの WebFOCUS または JDK サービスパックへのアップグレードが必要になる場合があります。
- ❑ 新しい Java SE メジャーリリースのサポートには動作保証が必要なため、下表で明記されていない限り、現時点ではサポートされません。
- ❑ 「動作保証済み」と記述されている場合、指定された リリース QA (品質保証) の動作保証プロセスで、指定された Java バージョンがテストされたことを示します。

動作保証済みまたはサポート対象の **Java** バージョンで問題が発生した場合は、技術サポートに連絡してください。

WebFOCUS バージョン **8.2.07** では、**WebFOCUS** および **ReportCaster Web** アプリケーションの展開先 **Application Server** に適用される **JVM** バージョンの最低要件は、**JVM** バージョン **8** です。

Java SE バージョンの動作保証ステータス このバージョンでは、**Oracle** および **OpenJDK** の **Java 8** および **Java 11** バージョンが動作保証されています。

サポート対象の Web サーバおよび Application Server

ベンダーの Web サーバおよび Application Server	バージョン
Apache Software Foundation (Apache Tomcat)	9 8.5.x (最新バージョン)
Apache Software Foundation (Apache HTTP)	2.4 2.2
IBM HTTP Server	8.5.5
IBM WebSphere	8.5.5.9 以降
Microsoft (IIS)	7.5 以降
Oracle WebLogic	12c (12.2.2.1、12.1.3.0.0)
Red Hat (JBoss)	Enterprise Application Platform 7.1.3

サポート対象の RDBMS およびドライバ

ベンダー (RDBMS)	バージョン	JDBC ドライバ
Apache Software Foundation (Apache HTTP)	10.9.1.0	derbyclient.jar

ベンダー (RDBMS)	バージョン	JDBC ドライバ
Microsoft (MS SQL Server)	2019	Microsoft JDBC Driver 8.4 for SQL Server mssql-jdbc-8.4.1.jre14.jar mssql-jdbc-8.4.1.jre11.jar mssql-jdbc-8.4.1.jre8.jar Microsoft JDBC Drive 8.2 for SQL Server mssql-jdbc-8.2.2.jre13.jar mssql-jdbc-8.2.2.jre11.jar mssql-jdbc-8.2.2.jre8.jar
	2017	Microsoft JDBC Drive 7.4 mssql-jdbc-6.2.2.jre8.jar ダウンロードは、「 https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=55539 」から可能です。
	2016	mssql-jdbc-6.2.2.jre8.jar
	2014	ダウンロードは、「 https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=55539 」から可能です。
	2012	
	2008	sqljdbc42.jar ダウンロードは、「 https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=55539 」から可能です。

ベンダー (RDBMS)	バージョン	JDBC ドライバ
IBM (DB2)	11.5	db2jcc4.jar
	10.5	
	9.7 FP4	
Oracle (Database)	19c	ojdbc8.jar
	18c	
	12c Release 2	ojdbc7.jar
	12c Release 1	
Oracle (MySql)	11g Release 2	ojdbc6.jar
	8.0.x	mysql-connector-java-8.0.19.jar
	5.7.x	
	5.6.x	
Postgresql	11.1	postgresql-42.2.11.jar
	10.7	
	9.6.x	
	9.5.x	

ローカリゼーション (NLV) および NLS の制限事項

TIBCO Software Inc. からは、一部の選別された言語で国際言語サポートおよびローカライズ版サポートが提供されています。その他の言語に関しては、技術サポートに新機能リクエストを送信することができます。

国際言語サポート (NLS)

国際言語サポート (NLS) は、さまざまな国際言語の文字セットを表すコードページで格納されたデータの読み取りと変換に必要です。TIBCO Software Inc. 独自の NLS API コードページアーキテクチャにより、アプリケーションクライアントとサーバコンポーネント間でデータがコード変換され、ソート処理、大文字小文字の変換、日付、通貨、数値の変換のすべてが管理されます。

ローカライズ版のサポート (NLV)

ローカライズ版は、ユーザインターフェース（例、メニュー、ユーティリティ）が特定の言語で表示されるソフトウェア製品です。ローカライズ版のインターフェースの配列は、すべての言語で共通です。ボタンやメニューの選択項目は、常に製品内の同一位置に表示され、ラベルのテキストのみが異なります。そのため、特定の言語で製品を使い慣れたユーザは、その製品を別の言語でも簡単に操作することができます。

ローカライズ版では、完全な国際言語サポート (NLS) 機能が提供されます。サポートされている任意の言語のデータにアクセスし、すべての国際言語文字を処理、表示、印刷することができます。

TIBCO WebFOCUS および TIBCO WebFOCUS Reporting Server

TIBCO WebFOCUS Reporting Server バージョンでは、データ処理で次のコードページがサポートされます。

ASCII プラットフォーム

137 - 英語 (米国)/西ヨーロッパ (Latin 1)	923 - Latin 9 (ISO 8859-15)
437 - 英語 (米国)	942 - 日本語 (shift-JIS)
813 - ギリシャ語 (ISO 8859-7)	946 - 中国語 (簡体字)
850 - 西ヨーロッパ言語	949 - 韓国語
852 - 中央ヨーロッパ言語	1089 - アラビア語 (ISO 8859-6)
857 - トルコ語	1250 - 中央ヨーロッパ言語 (Latin 2)

860 - ポルトガル語	1251 - キリル文字 (Windows)
862 - ヘブライ語	1252 - Windows (Latin 1)
863 - フランス語 (カナダ)	1253 - ギリシャ語 (Windows)
865 - 北欧ゲルマン系言語	1254 - トルコ語 (Windows)
866 - キリル文字 II	1255 - ヘブライ語 (Windows)
869 - ギリシャ語	1256 - アラビア語 (Windows)
912 - 中央ヨーロッパ言語 (ISO 8859-2)	1257 - バルト沿岸諸国言語 (Windows)
915 - キリル文字 (ISO 8859-5)	10942 - 日本語 (EUC)
916 - ヘブライ語 (ISO 8859-8)	10948 - 中国語 (繁体字)
920 - トルコ語 (ISO 8859-9)	65001 - Unicode (UTF-8)
921 - バルト語 (ISO 8859-13)	

言語

LANGUAGE パラメータは、国際言語サポート (**NLS**) の環境を指定します。このパラメータは、サーバのエラーメッセージに使用する言語を設定します。また、マスターファイルに別の言語の **TITLE** 属性が含まれている場合に、レポートタイトルに使用する言語をこのパラメータで設定することもできます。詳細は、『**WebFOCUS** メタデータリファレンス』を参照してください。

Web コンソール、**Data Migrator** およびデータ管理コンソールでは、次の言語がサポートされます。

(* ローカライズ版)

- ☐ 英語 (米国)
- ☐ 英語 (オーストラリア)*
- ☐ アラビア語
- ☐ ポルトガル語 (ブラジル)

- ☐ 英語 (カナダ)*
- ☐ クロアチア語
- ☐ チェコ語
- ☐ デンマーク語
- ☐ オランダ語
- ☐ 英語
- ☐ エストニア語
- ☐ フィンランド語
- ☐ フランス語*
- ☐ ドイツ語*
- ☐ ギリシャ語
- ☐ ヘブライ語
- ☐ ハンガリー語
- ☐ イタリア語
- ☐ 日本語*
- ☐ 韓国語
- ☐ ラトビア語
- ☐ リトアニア語
- ☐ ノルウェー語
- ☐ ポーランド語
- ☐ ポルトガル語
- ☐ ルーマニア語
- ☐ ロシア語
- ☐ 中国語 (簡体字)*
- ☐ スロバキア語
- ☐ スペイン語*

- ☐ スウェーデン語
- ☐ 中国語 (繁体字)*
- ☐ タイ語
- ☐ トルコ語
- ☐ 英語 (イギリス)

TIBCO WebFOCUS Client および ReportCaster

WebFOCUS Client および **ReportCaster** では、次のローカライズ版がサポートされます。

次の言語は、翻訳および動作保証プロセスが完了しています。

グループ 1 (完全翻訳)

- ☐ 英語 (オーストラリア、カナダ、英国、米国)
- ☐ フランス語 (カナダおよび標準)
- ☐ ドイツ語
- ☐ スペイン語

グループ 2 (部分翻訳)

次の言語では、特定のエリアのみで翻訳およびテストが完了しています。未翻訳のテキストは英語で表示されます。

- ☐ 中国語 (簡体字)
- ☐ ポルトガル語 (ブラジル)
- ☐ イタリア語
- ☐ 日本語

グループ 3 (評価中)

次の言語では、デモ用に特定のエリアのみで翻訳およびテストが完了しています。未翻訳のテキストは英語で表示されます。この言語を有効にする場合は、技術サポートに問い合わせてください。

- ☐ 韓国語

TIBCO WebFOCUS レポート および Microsoft Office のサポート

ここでは、**Microsoft Office** 製品で出力を生成する **WebFOCUS** レポートフォーマットのサポートについて説明します。また、**WebFOCUS** でセキュリティ保護されたプロシジャに動的ダウンロードリクエストを実行するハイパーリンクの注意事項についても説明します。

TIBCO WebFOCUS レポートフォーマットおよび Microsoft 製品との関連付け

下表は、**Microsoft Excel** および **PowerPoint** のレポートを作成する **WebFOCUS** のフォーマット、**Microsoft Office** のアプリケーション関連付け情報、および対応する **Windows** オペレーティングシステムのバージョンを示しています。

WebFOCUS フォーマット	Microsoft Office 製品	Windows オペレーティングシステム
XLSX	Microsoft Office 365、Microsoft Office 2016	Windows 10
	Microsoft Office 2016、2013、2010、2007	Windows 8
	Microsoft Excel Viewer 2007	Windows 7
PPTX	Microsoft Office 365、Microsoft Office 2016	Windows 10
	Microsoft Office 2016、2013、2010、2007	Windows 8
	Microsoft PowerPoint Viewer 2010	Windows 7
EXL2K (機能固定リソース)	Microsoft Office 2003、2000	Windows XP
PPT (機能固定リソース)	Microsoft Office 2003、2000	Windows XP
		Windows

Windows オペレーティングシステムで使用できる **Microsoft Office** のバージョンについての詳細は、「[Get Windows 10 App](#)」を参照してください。各 PC に対応する互換性レポートおよび PC、オンボードデバイス、アプリケーションの統合互換表示が参照できます。

TIBCO WebFOCUS の EXL2K、PPT フォーマットおよび Microsoft Office 製品のサポート

ファイルタイプおよび **Microsoft** が導入したコンテンツセキュリティポリシーにより、**WebFOCUS** の EXL2K、PPT フォーマットは **Microsoft Office 2013** 以降サポートされません。**WebFOCUS** の XLSX、PPTX フォーマットは、**Microsoft Excel XLSX、Microsoft PowerPoint PPTX**のファイルタイプおよび **Office 2013** 以降のコンテンツセキュリティポリシーを完全にサポートします。

Microsoft Office 2003 のサポート

「[Get Windows 10 App](#)」を参照してください。各 PC に対応する互換性レポートおよび PC、オンボードデバイス、アプリケーションの統合互換表示が参照できます。**WebFOCUS** 製品は、**Microsoft Office 2003** のアプリケーションでも起動および使用が可能です。Microsoft では継続してサポートやアップデートに対応できるよう **Office** の新しいバージョンへのアップグレードを推奨しています。**Windows XP** で **Office 2003** を使用する場合は、**Microsoft Office 2003** および **Windows XP SP3** のサポート終了についての詳細を、「[Support for Windows XP ended](#)」で確認してください。

新しいバージョンの **Microsoft Excel** および **PowerPoint** で作成したドキュメント、ブック、プレゼンテーションの開始（ファイルを開く）、編集、保存についての詳細は、「[Microsoft OfficeCompatibility Pack for Word, Excel, and PowerPoint File Formats](#)」を参照してください。

TIBCO WebFOCUS の EXL2K、PPT フォーマットおよび Microsoft Office Viewer 製品のサポート

Microsoft Excel Viewer および **PowerPoint Viewer** は読み取り専用の製品です。これらの製品では、**Microsoft Excel** および **PowerPoint** のデータの表示と印刷のみが可能です。**WebFOCUS** の EXL2K、PPT フォーマットのレポートは、バージョンにかかわらず **Microsoft Excel Viewer** および **Microsoft PowerPoint Viewer** ではサポートされません。**WebFOCUS** の XLSX、PPTX フォーマットのレポートは、それぞれ **Microsoft Excel Viewer** と **Microsoft PowerPoint Viewer** でサポートされており、表示が可能です。

Microsoft は、古いバージョンの **Microsoft Excel** および **Microsoft PowerPoint Viewer** のサポート終了を発表しています。サポートされる **Microsoft Office Viewer** 製品のバージョンについての詳細は、「[Supported versions of the Office viewers](#)」を参照してください。

Microsoft Office 365 のサポート

Microsoft Office 365 は、**Microsoft Excel** および **PowerPoint 2013** のローカルインストール機能を提供します。**Office 2010** に対応し、**Office 2007** の一部機能にも対応しています。

Microsoft Office 365 では、**Office Online** を使用してほとんどのデバイスからアクセス可能なクラウドに **Microsoft Excel** および **PowerPoint** のファイルをアップロードすることもできます。**Microsoft Office 365** についての詳細は、「[Office 365 for business FAQ](#)」を参照してください。

Microsoft Office 365 を使用して、**WebFOCUS** の **XLSX** および **PPTX** フォーマットのレポートにアクセスすることができます。最初に、**HOLD** ファイルとして **XLSX** および **PPTX** レポートをローカルに作成するか、**PCHOLD** コマンドを使用してレポートを画面に表示し、ローカルディレクトリに保存します。保存したファイルは、**OneDrive for Business** にアップロード、保存されます。クラウドにアップロード済みのファイルには、**Office Online** を使用してアクセスすることができます。

WebFOCUS レポートの保存についての詳細は、『[WebFOCUS Language リファレンス](#)』を参照してください。

Excel Online、**PowerPoint Online** および **Microsoft Office 2013** で使用可能な機能の違いについての詳細は、「[Office Online Service Description](#)」を参照してください。

Office Online および **OneDrive for Business** の使用についての詳細は、「[Using Office Online in OneDrive](#)」を参照してください。

ハイパーリンクを使用してレポートを実行する際の注意事項

WebFOCUS レポートでハイパーリンクを選択し、ドリルダウンリンクエントリから **WebFOCUS** のセキュアな **Web** 環境でプロシジャを実行するには、セキュリティコンテキストまたはセッション関連 **Cookie** の継承が必要です。**Microsoft Office** 製品は、**Web** ベースのアプリケーションが作成したセキュリティコンテキストまたはセッション関連 **Cookie** を継承しません。

次のオプションは、**WebFOCUS** レポートのハイパーリンクが **Microsoft Office** 製品内で機能するよう **Web** 環境を構成するために使用されます。

匿名アクセスを許可するよう **WebFOCUS** 認証を構成する。詳細は、『[WebFOCUS セキュリティ管理ガイド](#)』を参照してください。

SSO を **IIS/Tomcat Windows** 統合認証とともに使用する。再ネゴシエーションが自動的

- ❑ **WebFOCUS バージョン 8** では、[ログイン] ページの [ユーザを記憶する] 機能を有効にすることができます。エンドユーザが [ユーザを記憶する] 機能を使用した場合、永続 **Cookie** が使用されます。**Microsoft Office** 製品のセッション関連情報の処理についての詳細は、「[Error message when clicking hyperlink in Office: "Cannot locate the Internet server or proxy server"](#)」を参照してください。

TIBCO WebFOCUS の DOC フォーマット

WebFOCUS ドキュメントのスタイルフォーマットおよび印刷可能なフォーマットの標準は、**Acrobat PDF** フォーマットです。**WebFOCUS** の **PDF** フォーマットは、**Acrobat PDF** ドキュメントを作成します。**WebFOCUS DOC** フォーマットは、**Microsoft Word** ドキュメントではなく、文字ベースのファイルを生成します。

Legal and Third-Party Notices

SOME TIBCO SOFTWARE EMBEDS OR BUNDLES OTHER TIBCO SOFTWARE. USE OF SUCH EMBEDDED OR BUNDLED TIBCO SOFTWARE IS SOLELY TO ENABLE THE FUNCTIONALITY (OR PROVIDE LIMITED ADD-ON FUNCTIONALITY) OF THE LICENSED TIBCO SOFTWARE. THE EMBEDDED OR BUNDLED SOFTWARE IS NOT LICENSED TO BE USED OR ACCESSED BY ANY OTHER TIBCO SOFTWARE OR FOR ANY OTHER PURPOSE.

USE OF TIBCO SOFTWARE AND THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THE TERMS AND CONDITIONS OF A LICENSE AGREEMENT FOUND IN EITHER A SEPARATELY EXECUTED SOFTWARE LICENSE AGREEMENT, OR, IF THERE IS NO SUCH SEPARATE AGREEMENT, THE CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT WHICH IS DISPLAYED DURING DOWNLOAD OR INSTALLATION OF THE SOFTWARE (AND WHICH IS DUPLICATED IN THE LICENSE FILE) OR IF THERE IS NO SUCH SOFTWARE LICENSE AGREEMENT OR CLICKWRAP END USER LICENSE AGREEMENT, THE LICENSE(S) LOCATED IN THE "LICENSE" FILE(S) OF THE SOFTWARE. USE OF THIS DOCUMENT IS SUBJECT TO THOSE TERMS AND CONDITIONS, AND YOUR USE HEREOF SHALL CONSTITUTE ACCEPTANCE OF AND AN AGREEMENT TO BE BOUND BY THE SAME.

This document is subject to U.S. and international copyright laws and treaties. No part of this document may be reproduced in any form without the written authorization of TIBCO Software Inc.

TIBCO, the TIBCO logo, the TIBCO O logo, FOCUS, iWay, Omni-Gen, Omni-HealthData, and WebFOCUS are either registered trademarks or trademarks of TIBCO Software Inc. in the United States and/or other countries.

Java and all Java based trademarks and logos are trademarks or registered trademarks of Oracle Corporation and/or its affiliates.

All other product and company names and marks mentioned in this document are the property of their respective owners and are mentioned for identification purposes only.

This software may be available on multiple operating systems. However, not all operating system platforms for a specific software version are released at the same time. See the readme file for the availability of this software version on a specific operating system platform.

THIS DOCUMENT IS PROVIDED "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, OR NON-INFRINGEMENT.

THIS DOCUMENT COULD INCLUDE TECHNICAL INACCURACIES OR TYPOGRAPHICAL ERRORS. CHANGES ARE PERIODICALLY ADDED TO THE INFORMATION HEREIN; THESE CHANGES WILL BE

THE CONTENTS OF THIS DOCUMENT MAY BE MODIFIED AND/OR QUALIFIED, DIRECTLY OR INDIRECTLY, BY OTHER DOCUMENTATION WHICH ACCOMPANIES THIS SOFTWARE, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY RELEASE NOTES AND "READ ME" FILES.

This and other products of TIBCO Software Inc. may be covered by registered patents. Please refer to TIBCO's Virtual Patent Marking document (<https://www.tibco.com/patents>) for details.

補足：アシスト追記版リリースノート

以下は、株式会社アシストで把握する日本語環境で **TIBCO WebFOCUS** バージョン **8.2.07.28** を使用する場合はアップグレードに関する注意事項と既知の問題の追加ケースです。各ケースの詳細、および今後追加されるその他の問題につきましては、**AWSC**（アシストサポートサイト）からダウンロード可能な「不具合・非互換一覧」もあわせてご参照ください。

アップグレードに関する注意事項

- ❑ **SET DISPLAYROUND = ON/OFF** のデフォルト設定が変更され、**D**タイプフォーマット（浮動小数点数）の小数点以下値の演算結果が異なる場合があります。**8207.27** 以降では、**SET DISPLAYROUND = OFF** がデフォルトの設定となりました。これはバージョン **8008** 以前の動作と同じ結果となります。595212

以下のサンプルプロシジャを実行した場合、

```
DEFINE FILE CAR
  DEF_D/D7.1 = 102.55;
  DEF_F/F7.1 = 102.55;
  DEF_P/P7.1 = 102.55;
END
TABLE FILE CAR
  SUM DEF_D
      DEF_F
      DEF_P
  COMPUTE COM_D/D7.1 = 102.55;
  COMPUTE COM_F/F7.1 = 102.55;
  COMPUTE COM_P/P7.1 = 102.55;
  BY COUNTRY
END
```

D タイプフォーマット（**DEF_D**、**COM_D**）の値がバージョンにより以下の通りとなります。

- **8206.28** の結果： ※**SET DISPLAYROUND = OFF** がデフォルト
DEF_D → 102.5
COM_D → 102.5
- **8207.27** の結果： ※**SET DISPLAYROUND = ON** がデフォルト
DEF_D → 102.6
COM_D → 102.6

- ❑ データアップロードで **Oracle** の **30** バイトの制限を超えたテーブル名とフィールド名のデータをアップロードした場合、作成されるシノニムのテーブル名は切り捨てられますが、フィールド名は切り捨てられません。815975

- ❑ 新規ページの作成では、オンチャートフィルタは使用できません。オンチャートフィルタは、新規ビジュアライゼーション作成時（また、ビジュアライゼーションから [ページに変更] した場合のみ）に使用できます。816183
- ❑ baseapp はデフォルトのアプリケーションフォルダとして扱われるため、Webコンソールのアプリケーションパスの構成で、[利用可能なアプリケーション] の一覧には表示されません。アプリケーションパスに追加しなくてもアプリケーションの一覧に baseapp は表示されます。816221
- ❑ 8207 以降では、ホームページログイン画面に「パブリックアクセス」リンクは表示されません。ブラウザの URL 指定で、`http://servername/ibi_apps/public` を指定することでパブリックアクセスが可能となります。パブリックアクセスを行う場合、あらかじめログイン画面から `public` でログインしておく必要があります。816314
- ❑ 8207 以降では、WebFOCUS Client インストール時に Search Server ポート（`SOLR_PORT`）を入力する必要があります。デフォルトでは 8983 が指定されています。816327
- ❑ レガシースタイルの Analytic Document（`SET ARVERSION = 1`）で、[ピボット（クロス集計）]、[ピボットツール] を使用の際の「エクスポート」メニューから Power Point 形式は廃止されました。816329
- ❑ IIS-Tomcat 構成後、IIS 経由で接続しようとしたときに isapi エラーが発生する場合は、Tomcat の構成ファイル（`server.xml`）で AJP Connection ポート（8009）を有効化してください。816337
- ❑ App Studio 8207 をインストールする場合、更新インストールは使用できません。新規インストールを使用してください。816343
- ❑ データフローでサンプリングを有効にしている場合でも、ターゲットには全件ロードされます。816346
- ❑ HTML キャンバスでフレーム内に HTML ファイルを挿入する場合、プレビュー画面で挿入した HTML ファイルが表示されません。8207.27 以降では編集画面での HTML のライブプレビュー機能は廃止されました。816397
- ❑ App Studio バージョン 8.2.07.27以降では、以下のような仕様変更があります。818017
 - スタンドアロン構成は廃止されました。（AppStudio をインストールしても Reporting Server はインストールされません。）リモート構成を使用してください。
 - シノニムの各操作（作成、編集）およびデータのアップロードの各ツールは AppStudio では廃止されました。シノニムの各操作とデータのアップロードは Web コンソール（ホームページ）から使用することができます。

- セキュリティ設定、ReportCaster 各機能、レポートオブジェクト、ポータル作成の各ツールはApp Studio では廃止されました。各ツールは、ホームページから使用することができます。
 - グラフ、SQL グラフ、ビジュアライゼーション、アラートの各ツールを使用すると、ブラウザで起動します。ブラウザで起動したツールの操作はこれまでと同様に行うことができます。
 - HTML キャンバスでグラフを挿入し、右クリックメニューで [新規グラフ] は選択できません。HTML キャンバスでは、[既存グラフのインポート] または [既存グラフの参照] を使用してください。
 - プロシジャビューの新規作成メニューで [グラフ] は選択できません。新規グラフを作成する場合は、環境ツリーから作成してください。
 - グラフツールで、出力フォーマットを [Analytic Document] を選択した場合、デフォルト設定ではデザイナスタイルで出力されます。Analytic Document の出力スタイルは管理コンソールで変更することもできます。
 - App Studio では WebFOCUS 管理コンソール等、各種の管理メニューは廃止されました。各種管理メニューはホームページから使用することができます。
 - オンラインヘルプは、デフォルトでは メーカーのオンラインヘルプサイト（英語のみ対応）にリダイレクトされます。オンラインヘルプは別途オンプレミス上にヘルプファイルを構成することもできます。
- ❑ ホームページからの検索は、検索対象の前方もしくは後方一致の各文字列でのみ検索でき、中間の文字列では検索できません。例えば、「地区別売上本数」のタイトルのプロシジャを検索する場合、「地区別」、「地区別売上」、「売上本数」、「本数」では検索できますが、中間文字列（「売上」）では検索できません。
818025
- ❑ WebFOCUS Client をインストール後、ホームページにログインして共有コンテンツを表示しようとする、と、「 Severe ERROR_UNHANDLED_EXCEPTION(1059) IBFSService.listObject の処理で内部例外が発生しました。」というエラーが発生する場合があります。この問題は、Reporting Server をインストール、起動後、WebFOCUS を正しく構成を行った後、共有コンテンツを表示する前に、Reporting Server にアクセスすることにより、この問題は発生しません。818598
- ❑ Linux 版の WebFOCUS Client を更新インストール時、WebFOCUS管理者 ID（admin）のパスワードに表示されるマスク値を削除して正しいパスワードを入力しなおす必要があります。822110
- ❑ EVERYONE 権限を保有するユーザーでポータルログイン時、リソースツリーのワークスペース（ドメイン）以下に表示されていた公開済のコンテンツが 8207 では表示されません。公開済のコンテンツを表示するためには、コンテンツに対して ListAndRun 権限を付与してください。822120

- ❑ Designer で出力フォーマットが HTML5 でグラフを実行した場合、オンチャートフィルタメニューが有効になりません。オンチャートフィルタは、出力フォーマットを AHTML で実行、もしくは HTML5 の場合でもデザイン時やページに変換した後は使用できます。822228
- ❑ Designer でグラフを Analytic Document 形式で実行し、実行画面でオンチャートフィルタを使用すると、Designer のオンチャートフィルタメニューが表示されます。InfoAssist では、Analytic Document 形式で実行すると、実行画面では Analytic Document のオンチャートフィルタメニューが出てくるため動作が異なります。822253
- ❑ 8207.27 以降で、WebFOCUS Client 更新インストールが失敗する場合があります。その場合、[WebFOCUS Search Server] のサービスを「無効」にして OS 再起動後に更新インストールを行ってください。822321
- ❑ 以前のバージョンで作成した myhome 配下のシノニムを使用したプロシジャを、8207 で実行する場合、edasprof.prf に以下の記述を追加してください。822493
APP MAP myhome &APPMYHOM
- ❑ ホームページの検索で特殊文字は検索できません。 \ \$? ! & [] { } = < > + - * / ~ | " ; , . ` ^ # は、検索不能です。822662
- ❑ Designer の [標準レポート]、[グリッド] のレポートでは、ツールチップが表示されず、オンチャートフィルタも利用できません。822783
- ❑ WebFOCUS バージョン 8.2.01 から更新インストールする場合、Tomcat に同梱される Java のポリシーファイルが古いことにより、スケジュールジョブの保存で「Internal exception processing IBFSService.createItem」のエラーが発生したり、ReportCaster サービスの起動やスケジュールが実行できない問題が発生する場合があります。822796
- ❑ 8207 では Designer グラフの [メータ] グラフにて、グラフスタイルの設定から [フォーマット] タブの [全般] で [シリーズ] が表示されません。822864
- ❑ ワークスペース（ドメイン）作成時、[Reporting server アプリケーションの作成] の初期値が 8207 では [ON] がデフォルトとなりました。そのため、アプリケーションパスはワークスペースのプロパティから個別に設定する必要があります。以前のバージョンと同じ動作（サーバのアプリケーションパスを使用）とするためには、ワークスペース作成時に [Reporting server アプリケーションの作成] を [OFF]（チェックを外す）とします。823393

- ❑ Tomcat 停止時にエラーが `catalina.out(catalina.yyyy-mm-dd.log)` に以下の出力される場合がありますが、本メッセージは無視することができます。641865

```
WARNING [localhost-startStop-2]
org.apache.catalina.loader.WebappClassLoaderBase.clearReferenc
esJdbc The web application [ibi_apps] registered the JDBC
driver [ibi.jlink.EdaDriver] but failed to unregister it when
the web application was stopped. To prevent a memory leak, the
JDBC Driver has been forcibly unregistered.
```

- ❑ 冗長構成の WebFOCUS にて、1つのリポジトリに対して別々のサーバから Resource Analyzer を構成する際に同じサーバ名で構成すると、すでに構成済みの Resource Analyzer テーブルが削除される場合があります。Resource Analyzer 構成時のサーバ名はサーバ単位で一意となるように構成してください。831598
- ❑ ReportingServer 起動時に edaprint に「E r1syscmf failed to start nodejs」エラーが表示されます。このエラーが発生する場合、edaserve.cfg に記載されている「nodejs_url = http://マシン名:8126」をコメントアウトしてください。この設定は現在のバージョンでは使用されていません。832641
- ❑ Windows 版の WebFOCUS バージョン 8.2.07.28 から ReportCaster のレジストリのパスが変更されました。8.2.07.28 以降のパスは以下の通りです。836745

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Apache Software
Foundation\Procrun 2.0\WF82\Parameters\Java
```
- ❑ Windows 版の WebFOCUS 8.2.07.28において、Java の導入ディレクトリパスは、以前の `Drive:\ibi\WebFOCUS82\jre` から `Drive:\ibi\WebFOCUS82\jdk` に変更されました。837114
- ❑ Tomcat 停止時に `ibi.jlink.EdaDriver JDBC` ドライバエラーが `catalina.out(catalina.yyyy-mm-dd.log)` に出力される場合がありますが、警告メッセージとして無視することができます。837489
- ❑ オンラインヘルプを構成済みの 8207.27 から 8207.28 へ更新インストールする場合、オンラインヘルプ (Client ヘルプ) が正しく動作しません。更新インストールを行う場合、オンラインヘルプは再度構成しなおす必要があります。837591
- ❑ ブラウザが IE11 の場合、ホームページにログインすると、「2021年4月1日をもって Internet Explorer11 のサポートを終了しました。」のメッセージが表示され、レガシーホームページにリダイレクトされます。8207.28 以降、ホームページにログインするためには Chrome、Firefox、Edge を使用してください。838316

- ❑ Windows環境で8207.27から8207.28に更新インストールするとホームページの検索機能が動作しません。

C:\libiWebFOCUS82\Solr\WF82SrchSvc\libi_solr_service_cfg.ps1のJAVA_HOMEのパスを変更し、Search Serverサービスを再起動してください。837489

変更前: \$ENV:JAVA_HOME = "C:\libiWebFOCUS82\jre"

変更後: \$ENV:JAVA_HOME = "C:\libiWebFOCUS82\jdk"

- ❑ ファイル名、フィールド名、シノニム名、アプリケーションフォルダ名、ドメインのフォルダ名に以下の文字は使用しないでください。

使用禁止文字一覧:

全角小文字アルファベット (a、b、c)	半角アルファベット + 数字 (例:C1、C3)
ローマ数字小文字 (i、ii、iii)	半角スペース
半角、全角アットマーク (@、@)	円記号、ドル記号 (\、\$)
疑問符 (?)	感嘆符 (!)
アンパサンド (&)	大括弧 ([])
中括弧 ({ })	小括弧 (())
等記号 (=)	不等記号 (< >)
プラス (+)	ハイフン (-)
星印 (*)	斜線 (/)
チルダ (~)	縦線 ()
二重引用符 (")	引用符 (')
セミコロン (;)	コロンの (:)
コンマ (,)	ピリオド (.)
アクセント符号 (',' ^)	ベータ (β)
シャープ (#)	

ただし、ユーザ名とグループ名は、ハイフン (-) の使用は可能です。また、アンダースコア () の使用も可能です。

以下の文字はWebFOCUSでは予約語として認識しますので、ファイル名、フィールド名、シノニム名、アプリケーションフォルダ名に使用しないでください

- 以下の文字はWebFOCUSでは予約語として認識しますので、ファイル名、フィールド名、シノニム名、アプリケーションフォルダ名に使用しないでください。588646
予約語一覧:

ABS、AUTOPATH、ACCESS、ACROSS、ADD、AGAIN、ALIAS、ALL、ALTER ALLOC、ANALYSE、AND、ANY、AS、ASC、 AUTHORIZATION、AVG、ANOVA、ASQ、AVE、AUTOINDEX
BEGIN、BETWEEN、BINARY、BACK、BIN、BINS、BIT、BOTH、 BY
CALL、CASE、CAST、CHAR、CHANGE、CHARACTER、CHECK、CLOSE、 OALESCE、COLFETCH、COMMIT、CONCAT、CONNECT、 CORRESPONDING、COUNT、CREATE、CROSS、CURRENT、CURSOR、 CLEAR、CNT、CO、COLUMN、COLUMN-TOTAL、COMBINE、COMMIT、 CONCAT、COMPILE、COMPUTE、CDN、CONSULT、CONTAINS、 CONTINUE、CORRE、CREATE、CRTFORM、CT
DATABASE、DATE、DATETIME、DAY、DAYS、DEALLOCATE、DEC、 DECIMAL、DECLARE、DBA、DECRYPT、DEFINE、DEL、DELETE、DUPL、 DT、DST、DESCRIPTION、DIS、DISPLAY、DMTY、DMY、DMYY、 DEFAULT、 DESC、DISTINCT、DO、DOUBLE、DROP
ENCRYPT、END、EQ、EX、EXCEEDS、EXCLUDES、EXEC、EXIT、EXPLAIN EXSMO、EXTSORT、ECHO、EDIT、ELSE、ELSEIF、END、ESCAPE、EXCEPT、 EXECUTE、EXISTS
FORMAT、FREEFORM、FROM、FST、FIELDNAME、FILE、FETCH、FLOAT、 FOR、FOREIGN、FULL、FUNCTION
GRAPH、GT、GTREND、GE、GOTO、GET、GRANT、 GRAPHIC、GROUP
HIST、HOLD、HEADING、HIGHEST、HAVING、HOUR、HOURS
IF、IN、INCLUDES、INDEX、INPUT、INT、INVALID、IS、IS-LESS-THAN、 IS-MORE-THAN、IS-NOT、INCLUDE、I、IF、IMAGE、INCLUDE、INDEX、 INDICATOR、INNER、INOUT、INSERT、INTEGER、INTERSECT、INTO、IS、 ITERAT
JOIN、JUMP

KEY
LE, LET, LINES, LINK, LIST, LOC, LOCATE, LOG, LST, LT, LAST, LEADING, LEAVE, LEFT, LIKE, LOCK, LOGICAL, LONG, LOOP
MARK, MATCH, MAX, MDISC, MDY, MDYY, MIN, MAINTAIN, MORE, MODIFY, MOVE, MSG, MT, MTDY, MULTR, MULTI-PATH, MAX, MICROSECOND, MICROSECONDS, MILLISECOND, MILLISECONDS, MINUTE, MINUTES, MONEY, MONTH, MONTHS
NE, NEXT, NOMATCH, NOPRINT, NOT-FROM, NOTOTAL, N, NATURAL, NOT, NULL, NULLIF, NUMBER, NUMERIC
OM , OMITS, ON, ONLINE, OR, OVER, OFFLINE, OF, ONLY, OPEN, OPTIMIZE, OPTION, ORDER, OUT, OUTER
PAGE-BREAK, PANEL, PASS, PAUSE, PCT, PICKUP, PIE, POLRG, PRINT, PROMPT, PAGE, PACKAGE, PERCENT, PLAN, PRECISION, PREPARE, PRIMARY, PROCEDURE, PROGRAM, PURGE
QUIT, QUERYNO
RANKED , REBUILD, READLIMIT, RECAP, RECOMPUTE, RECORDLIMIT RECTYP, RECTYPE, REORG, REPLACE, REplot, RESTRICT, RETYPE ROLLBACK, ROW, ROW-TOTAL, ROWS, RPCT, REPAGE, RAW, REAL, REFERENCES, REPEAT, RESET, RETURN, RETURNS, REVOKE, RIGHT, ROLLBACK
SAVE, SCAN, SEG, SEGMENT, SEGNAME, SET, SHOW, SKIP-LINE, SQRT, ST, STATSET, STOR, STORE, SUB-TOTAL, SUBFOOT, SUBHEAD SUBTOTAL, SUMMARIZ, SUPPRINT, SAVB, SCHEMA, SECOND, SECONDS, SELECT, SERIAL, SMALLFLOAT, SMALLINT, SOME, STOGROUP, SUM, SYNONYM, SYSNAME
TABLEF, TED, TEMP, TLOCATE, TO, TOP, TOT, TOTAL TRACE, TYPE TABLE, TABLESPACE, TEXT, THEN, TIME, TIMESTAMP, TRAILING, TRUNCATE
UP, UPDATE, USAGE, USE, USER, UNDERLIN, VALIDATE, UNION, UNIQUE, UNTIL, UPDATE, USER_TYPE_NAME, USING

VALUES、VARBINARY、VARCHAR、VARGRAPHIC、VARYING、VIEW
WHERE、WITHIN、WRITE、WHEN、WHILE、WITH、WORK
XFER
YMD、YMTD、YYMD、Y、YEAR、YEARS
「WF」、「DT」、「FOC」、「DATE」から始まる名称

- 以下は、FIELDNAME、ALIAS、TABLEAMEで使われる特殊文字のサポート状況です。（○：サポート、×：サポート対象外）

項番	特殊文字	Shift_JIS	UTF-8	サポート
1	、	0x8141	E38081	○
2	。	0x8142	E38082	○
3	，	0x8143	EFBC8C	×
4	・	0x8144	EFBC8E	×
5	・	0x8145	E383BB	○
6	：	0x8146	EFBC9A	×
7	；	0x8147	EFBC9B	×
8	？	0x8148	EFBC9F	×
9	！	0x8149	EFBC81	×
10	～	0x8160	E3809C	○
11	｜	0x8162	EFBD9C	×
12	‘	0x8165	E28098	○
13	’	0x8166	E28099	○
14	“	0x8167	E2809C	○
15	”	0x8168	E2809D	○
16	（	0x8169	EFBC88	×
17	）	0x816A	EFBC89	×
18	「	0x8175	E3808C	○
19	」	0x8176	E3808D	○
20	<	0x8183	EFBC9C	×
21	>	0x8184	EFBC9E	×
22	¥	0x818F	EFBFA5	×
23	\$	0x8190	EFBC84	×
24	#	0x8194	EFBC83	×
25	&	0x8195	EFBC86	×
26	@	0x8197	EFBCA0	×
27	☆	0x8199	E29886	○
28	β	0x83C0	CEB2	×

既知の問題

- ❑ HTML キャンパスの [タスクとアニメーション] で [完了待ち] ステータスを使用し、JavaScript コールを呼び出す場合、実行が完了していないにもかかわらず 30 秒ほどで JavaScript コールが呼び出されてしまいます。720159
- ❑ 「db2」という名称のアプリケーションフォルダに存在するシノニムを使用して InfoAssist で JOIN しようとする、JOIN 画面上にポップアップメッセージが表示され、JOIN ができません。731202
- ❑ InfoAssist で作成済みのレポートで使用しているシノニムに対してフィールドを追加後、再度 InfoAssist でレポートを開くと、[データ] エリアに追加したフィールドが反映されない場合があります。773752
- ❑ 8207 では ReportCaster ステータス画面の [最大接続数/スレッド数] (Maximum Connection/Threads) の制限が撤廃されましたが、ReportCaster ステータス画面から [最大接続数/スレッド数] を設定しようとしても 100 までしか指定できません。805588
- ❑ Designer のアコーディオンコンテナのエリアを追加し、実行した場合、アコーディオンの表示エリアを変更すると、グラフの高さが半分になってしまいます。ブラウザのリフレッシュ、もしくはリサイズにより正しいサイズで表示することができます。814823
- ❑ Designer でページに変換後、パネルグループコンテナ上にベーシックコンテナを配置しグラフを作成、実行画面で PDF /イメージ出力するとグラフの凡例が切れる場合があります。815329
- ❑ InfoAssist のビジュアライゼーションで、任意のグラフを作成し、実行後グラフをレポート表示に切り替え、集計項目のカラムが複数表示されます。816006
- ❑ InfoAssist のビジュアライゼーションで作成したコンテンツをモバイルビューで開こうとするとモバイルビューの画面の左上のメニューを開くことができません。816200
- ❑ XLSX (EXL07) 出力形式において、文字タイプ (A フォーマット) 項目に ["] のデータが入っていた場合に、EXCEL セルに半角スペース (' ') として出力されます。8206では半角スペースは入りませんでした。816274
- ❑ Chrome ブラウザで、グラフを PDF 出力すると、タイトルが文字化けします。ファイルをダウンロードして開きなおした場合は、文字化けは発生しません。816285
- ❑ http://servername/ibi_apps/public の URL 指定でパブリックアクセス後、[ワークスペース] 等をクリックするとログイン画面が表示されます。816286

- ❑ 8206で作成された以下の連鎖設定をしたHTMLを8207で実行するとロード画面が表示され続け、実行できません。816400
 - 連鎖元で、「オンデマンド」もしくは「初期ロード後」を設定している。
 - 連鎖先の子の「オンデマンド」設定が、「初期ロード前」となっている

- ❑ InfoAssist で、レポートを作成する時、フィルタで日付の条件設定 [月の終了] など以下の値を使用すると、「(FOC36355) 引数のタイプが無効です。」のエラーが発生します。816716
 - 今日
 - 月の開始
 - 月の終了
 - 四半期の開始
 - 四半期の終了
 - 年の開始
 - 年の終了

- ❑ ビジネスビューから作成した HOLD ファイルを JOIN し、レポートを作成すると、オブジェクトインスペクタに数値フィールドがメジャーグループに配置されず、デイメンショングループに配置されることがあります。818538

- ❑ App Studio のユーティリティフォルダに配置される通信レイヤートレースなどの各機能のショートカットファイルが存在しません。ショートカットはありませんが、通信レイヤートレースの実行ファイル自体は以下にあり実行することができます。821938


```
drive:\ibi\AppData82\bin\WFSCOMTrace.exe
```

- ❑ HTMLキャンパスで、ダブルリストコントロールを使用し、[ポップアップスタイル] と [実行用 'ページ/検索' の追加] 機能を使用して実行すると、ダブルリストコントロールの表示が狭くなり、検索コントロールが表示されません。822364

- ❑ Analytic Document レポートからグラフを新規作成すると、 グラフフォーマット一覧に [ビジネス] エリアが表示されず、一部のグラフタイプが使用できません。822559

- ❑ 8207.27 の Reporting Server を新規インストールする場合、「 Now Installing TIBCO WebFOCUS 82 Server 」の画面で OK ボタンをクリック後、次の画面に遷移するまで時間がかかる場合があります。10 分～ 20 分後、自動的にインストールが再開され問題なくインストールできます。822670

- ❑ データアップロード時、ロードオプションでアダプタに [Vertica] 選択時に [バルクロード] チェックボックスを OFF にできません。822834

- ❑ App Studio の Analytic Document のオプションでメニューオプショングループのメニュー色を指定するアイコンメッセージが正しく表示されません。590263
- ❑ QuickData のセキュリティ設定が ReportingServer のとき、クエリの作成で「利用可能な Reporting Server がありません」のエラーが発生します。748594
- ❑ ダブルリストコントロールで値が 100 件以上あり、数ページに表示が分かれる場合、「すべて追加」ボタンで右側のリストボックスに 100 件値を移動させた後にリセットボタンをクリックすると、右側のリストボックスに移動させた値がリセットされず、左右両方のリストボックスにも値が表示された状態となります。829371
- ❑ ReportingServer のインストール時に最後の「選択した製品パラメータの確認」ダイアログから[戻る]ボタンで前の画面に戻ることができません。831485
- ❑ ホームページへアップロードしたファイルのファイルサイズが実際よりも大きなサイズ（約 10 倍以上）で表示されます。831622
- ❑ データアップロード機能（詳細モード）の[ロードオプション]にて[キーフィールドの継承元]の値を変更した場合に、[ロードに進む]ボタンが消え、ロードできません。831830
- ❑ ホームページにて、カラム数が多いプロシジャを選択しプロパティパネルを開いた状態で選択ファイルを切り替えると、ハングアップする場合があります。ファイルを切り替える前にプロパティパネルを閉じてください。831945
- ❑ Report Caster で配信したレポートをダブルクリックするとテキストエディタで HTML ソースが表示されます。レポートを表示する場合は右クリックメニューから開いてください。832334
- ❑ 「SET HOLDFORMAT = ALPHA」を設定した状態で可変長（AnV）項目をキーにし、MATCH 結合を行った場合、正しい結果が得られません。「SET HOLDFORMAT = BINARY」を使用するか、キーに固定長（An）項目を使用してください。836465
- ❑ HTML キャンバスで連鎖コントロールが設定されているダブルリストコントロールを配置し、「選択値の保持」を有効にしても選択した値が保持されません。837028
- ❑ データが日本語の場合、Designer の条件付きスタイルでドリルダウンのリンク先を設定することができません。837370
- ❑ InfoAssist のドキュメントデザインビューで、複数の HOLD ファイル、複数のページを作成した状態から、HOLD が 1 つになるまで削除した場合、「Invalid session used in call」のエラーが発生します。837459

❑ **Analytic Document** のレガシースタイル（SET ARVERSION=1）の場合、[ALLOW-PIVOT=OFF] が設定されるレポートを実行すると、レポートが表示されません。この問題は、デザイナスタイル（SET ARVERSION=2）では発生しません。837510

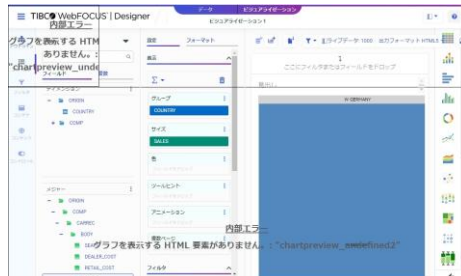
❑ **WebFOCUS mobile app** で、複数の **Site** を登録し交互に接続を切り替えて使用する場合、選択しているSiteのユーザではなく、他の **Site** に設定されている別のユーザでログインしてしまう場合があります。837544

❑ **BUCKET** 構文で作成されたグラフで、**BY** 項目のソート(降順)、フォーマット指定を設定すると 正しいグラフが表示されません。838060

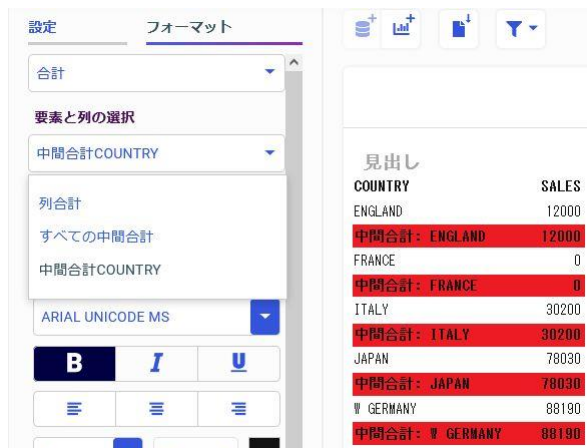
```
GRAPH FILE CAR
PRINT
SALES/D20
BY HIGHEST SALES/D20 NOPRINT
BY COUNTRY
ON GRAPH PCHOLD FORMAT JSCHART
ON GRAPH SET LOOKGRAPH BAR
ON GRAPH SET STYLE *
TYPE=DATA, COLUMN=N1, BUCKET=x-axis, $
TYPE=DATA, COLUMN=N2, BUCKET=x-axis, $
TYPE=DATA, COLUMN=N3, BUCKET=y-axis, $
ENDSTYLE
END
```

❑ **HTML** キャンバスでダブルリストコントロールを配置し、[ポップアップスタイル] と [実行用 'ページ/検索' の追加] 機能を有効にした場合、**HTML** 実行時、[設定の表示] ボタンをクリックして「すべてリセット」ボタンを押すと、右リストボックスが検索コントロールと重なって表示されてしまいます。この問題を回避するためには、「設定の表示」を閉じてから「すべてリセット」ボタンを押してください。838593

❑ **Designer** を使用してツリーマップ作成時、[グループ]で「データフォーマット設定」の長さを変更してウィンドウを最大化すると、内部エラーが発生し操作ができなくなります。842986



- ❑ Designer の標準レポートで、[要素と列の選択]から、[すべての中間合計]を選択している場合、設定したスタイルが反映されません。この問題は、[要素と列の選択]で [中間合計（項目名）]を指定した場合は発生しません。843012



- ❑ Designer、InfoAssist でコロプレスマップまたはプロポーショナルシンボルマップを使用すると、マップサービスに接続できずエラーが発生し実行できません。この問題は8207.28 の次の Hotfix で修正予定です。843408
- ❑ Web コンソール画面のデータの取得（詳細モード）で、リモートサーバの構成画面より、キャンセルボタンをクリックすると、他のアダプタの構成画面が表示されなくなります。844027